

伏見城跡・桃陵遺跡・奉行前町古墳

2017年

古代文化調査会

伏見城跡・桃陵遺跡・奉行前町古墳

2017年

古代文化調査会

例 言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市伏見区奉行前町3番において、マンション建設に伴い実施した伏見城跡、桃陵遺跡、奉行前町古墳（15F692）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、株式会社プレサンスコーポレーションより委託を受けた古代文化調査会の上村憲章が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の指導を受けた。
4. 本書の編集・執筆は上村がおこなった。
5. 図面及び遺構・遺物の整理、遺構の製図は上村がおこない、遺物の実測は板谷桃代がおこなった。
6. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系VIによる。記載した数値はm単位で、水準はT.P.（東京湾平均海面高度）である。
7. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の25,000分の1（京都東南部）、京都市都市計画局発行の2,500分の1の地図（丹波橋・中書島）を調整し、使用した。
8. 土壌及び土器・瓦類の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に準じた。
9. 遺物番号は実測図・写真ともに共通している。調査記号は「16FTOR」とした。
10. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

馬瀬智光 大倉龍也 奥井智子 梶川敏夫 柏田有香 熊井亮介 熊谷舞子
黒須亜希子 小森俊寛 近藤章子 鈴木久史 西大條哲 西尾春佳 新田和央
平尾政幸 宮原健吾
(株)明輝建設 (株)礎 (株)真興 (株)プレサンスコーポレーション
(公財)京都市埋蔵文化財研究所 (有)京都編集工房

本文目次

伏見城跡・桃陵遺跡・奉行前町古墳

I	調査の経緯	1
II	調査の経過	1
III	遺構	4
IV	遺物	7
V	まとめ	12

図版目次

図版 1	遺跡	第 1 面平面実測図
図版 2	遺跡	第 2 面平面実測図
図版 3	遺跡	第 3 面平面実測図
図版 4	遺跡	壁面実測図
図版 5	遺跡	セクション断面実測図
図版 6	遺跡	1 調査前風景（北東から） 2 第 1 面近景（東から）
図版 7	遺跡	1 第 1 面全景（東から） 2 第 1 面中央部（東から）
図版 8	遺跡	1 第 2 層全景（東から） 2 第 2 面中央部（東から）
図版 9	遺跡	1 第 3 面溝 156（奉行前町古墳周濠）（東から） 2 第 3 面溝 156（奉行前町古墳周濠）（南から）
図版 10	遺跡	1 第 3 面溝 156（奉行前町古墳周濠）（北東から） 2 第 3 面奉行前町古墳断割り状況（北東から）
図版 11	遺跡	1 柱穴 3（南から） 2 柱穴 6（南から）

- 3 柱穴 16 (南から)
- 4 柱穴 17 (南から)
- 5 柱穴 60 (南から)
- 6 柱穴 121 (南から)
- 7 Y-24,415.2m セクション (西から)
- 8 Y-24,423m、同 429m セクション (南東から)

図版 12 遺物 溝 156・第 2 面上面・整地層出土遺物

図版 13 遺物 溝 156 出土遺物

図版 14 遺物 溝 156 出土遺物

図版 15 遺物 溝 156 出土遺物

図版 16 遺物 溝 156 出土遺物

図版 17 遺物 溝 156 出土遺物

挿 図 目 次

図 1	調査地点位置図	1
図 2	調査位置図	2
図 3	柱穴 121 実測図	5
図 4	柱穴 3 実測図	5
図 5	柱穴 6 実測図	5
図 6	柱穴 16 実測図	5
図 7	柱穴 17 実測図	5
図 8	柱穴 60 実測図	5
図 9	溝 156 (奉行前町古墳周濠) 出土土器実測図	7
図 10	第 2 面出土土器実測図	7
図 11	整地層出土土器実測図	7
図 12	整地層出土瓦実測図・写真	8
図 13	溝 156 (奉行前町古墳周濠) 出土埴輪実測図・拓影	9
図 14	溝 156 (奉行前町古墳周濠) 出土埴輪実測図・拓影	10
図 15	溝 156 (奉行前町古墳周濠) 出土埴輪実測図・拓影	11
図 16	溝 156 (奉行前町古墳周濠) 出土人物埴輪実測図	11
図 17	奉行前町古墳全体図	12

表 目 次

表 1	遺物概要表	13
表 2	掲載遺物一覧表	14

伏見城跡・桃陵遺跡・奉行前町古墳

I 調査の経緯

調査地は、京都市伏見区奉行前町3番で、伏見城跡、桃陵遺跡、奉行前町古墳に該当する。奉行前町は北に魚屋町通、南に立石通、西は近鉄京都線、東は西奉行町に接する。京都分地の東南部に位置し、伏見城の本丸からは南西部へと低地に向かう斜面部分に当たる。伏見城跡であるとともに桃陵遺跡、調査対象地の北部には2013年の調査で明らかとなった奉行前町古墳が知られている。

当該地で、株式会社プレサンスコーポレーションによりマンション建設の計画がなされ、工事に先立ち京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が試掘調査を実施した。調査区の中央部から南部には以前の建物の基礎があり攪乱が著しいことから、北部を中心に奉行前町古墳の追跡調査を目的の中心とした調査区を設定することとした。関係者の協議の結果、同文化財保護課の指導を受け当調査会が発掘調査をおこなうこととなり、2016年8月22日から同年10月28日までの間、調査を実施し完了した。

II 調査の経過

伏見の北側の深草は弥生時代中期の遺跡や、古墳時代では渡来系の嵯峨野秦氏との関連も指摘され古くから開発が進んでおり、南部の伏見城城郭、城下町が築かれた桃山丘陵一帯も、古



図1 調査地点位置図 (1/25,000)

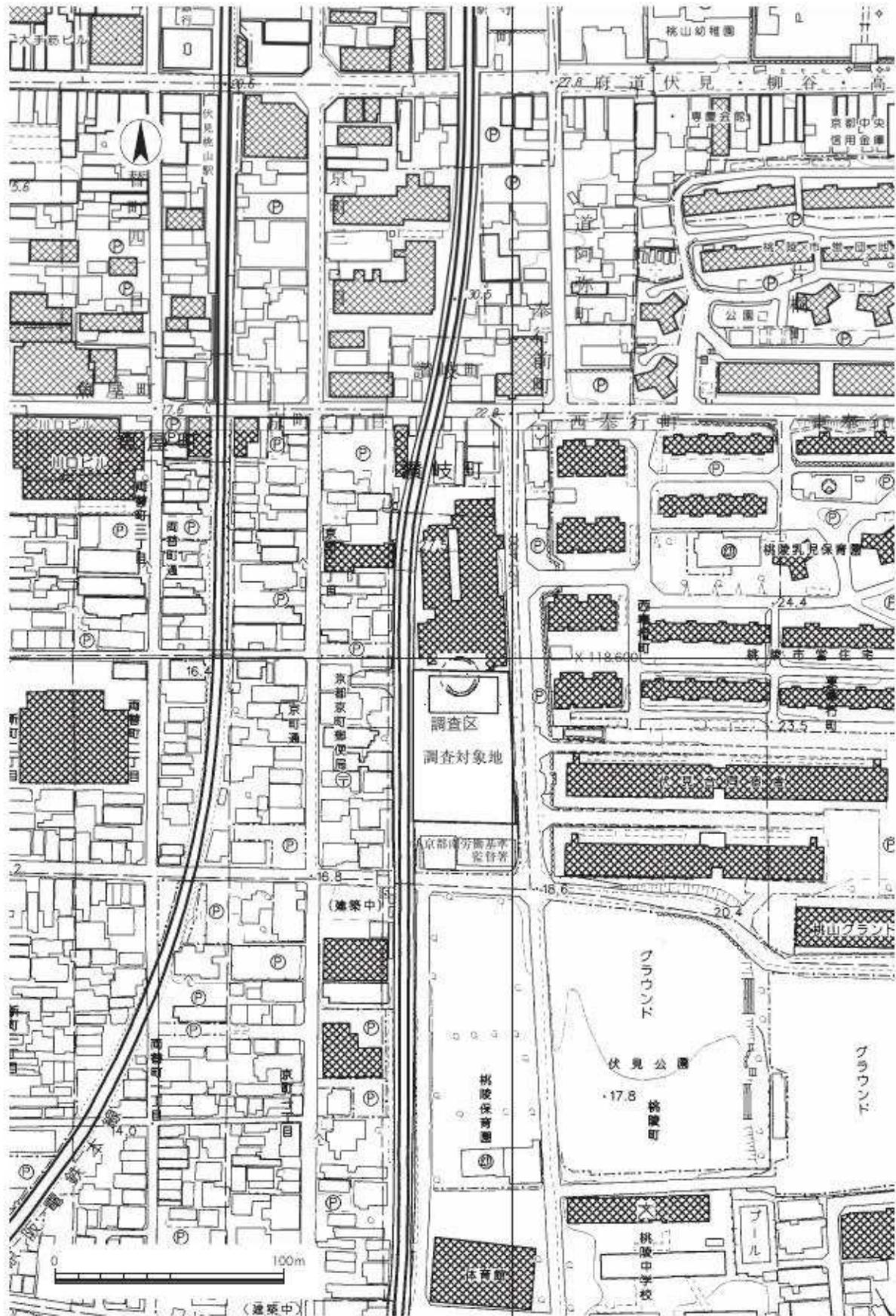


図2 調査位置図 (1/2,500)

くは橋俊綱（藤原頼通の三男、長元元・1028～寛治八・1094年）の伏見山荘「臥見亭」があった。「中右記」寛治七年十二月二十四日の条には、「今日辰の時許、修理大夫俊綱の臥見亭、已に以て焼亡す。件の処風流他に勝り、水石幽奇なり。悉く煨燼となす。誠に惜しき哉。」とあり、作庭は俊綱自身によるものであったとされる。山荘の位置について「雍州府志」には「在伏見山南、其地南向、山水在目前且地形自有高低、雪朝特添奇観、俊綱常以是誇人云々」とあり、伏見山の南麓、御香宮神社の東南江戸町の崖上辺り（現桃山町泰長老・同本多上野）と推定されるが確証はない」と「京都市の地名（日本歴史地名体系 27 平凡社）」は述べている。

俊綱の没後は弟の家綱に譲られ、家綱はこれを白河院に献上、さらに白河院から有仁親王に渡った。有仁親王が移り住んで伏見寺と称したのは保延二（1136）年のころという。その後、後白河院、後嵯峨院、後深草院、龜山院へと受け継がれ北朝持明院の仙洞として利用された。14世紀に入り伏見宮家へ受け継がれ、豊臣秀吉が伏見城築城に至るまでは代々伏見家当主に受け継がれたようだ。

豊臣秀吉は文禄元（1592）年に指月に新城の造営を開始する。四年後、地震により伏見城が倒壊し、「義演准后日記」文禄五（1596）年七月十三日の条では「京都の在家顛倒し、死人其の数を知らず。烏部野、煙断えず。（中略）伏見の事、御城御門殿以下大破す。或は顛倒、大殿守（天守）悉く崩れ倒れ了んぬ。男女御番衆、数多く死ぬ、未だ其の数を知らず。其の外、諸大名の屋形或は顛倒、或は相残ると雖も、形ばかりなり。其の外在家為体、前代未聞、大山も崩れ、大路も破裂す。只事にあらず。」と書いている。しかし同年の「当代記」には「十月十日日本丸の分、普請出来す」とし本丸の完成を伝えている。秀吉は慶長三（1598）年、伏見城にて死去。関ヶ原の戦いを経て元和五（1619）年に伏見城の破却が決定され、元和九（1623）年には天守は二条城、石垣は大坂城へ移設され城としての機能を終わる。

当調査区から約300m南の桃陵中学の校内で昭和六十三（1988）年、平成二十七（2015）年に発掘調査が行われた。昭和六十三年の調査では弥生時代中期の方形周溝墓や古墳時代の埴輪の破片、その他中世墓、桃山時代の遺構や金箔瓦などが検出され、平成二十七年には縄文土器、弥生土器や方形周溝墓、飛鳥から奈良時代の住居址などが見つまっている。また東、西奉行町の調査でも方形周溝墓などが検出され、京都市遺跡地図台帳が示している桃陵遺跡の範囲から逸脱しているところもあり、当遺跡の範囲をもう少し検討する必要がある。

今回の調査では、調査面積480㎡（敷地面積約2,969.82㎡）を設定し、古墳時代溝（円墳の周濠）、平安時代～桃山時代の遺構・遺物、江戸時代～幕末・明治初頭の柱穴、土壇などの遺構・遺物、を検出し調査した。

平面直角座標系VIによる基準点測量データを使用し、4mメッシュのグリッドを設定し、遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。現場の基本図は20分の1で実測した。

Ⅲ 遺 構

機械掘削にて整地層（北壁 15 層・南壁 6 層・Y-21,429.0 m セクション第 1 層・Y-214,23.0 m セクション第 3 層・Y-21,415.2 m セクション第 2 層）の上面を検出し、これを第 1 面とした。整地層は厚さ 0.9 ～ 1.0 m 程を測り、京都 XIV 期の土器を含んでおり第 1 面は幕末～明治の面と考えられる。この分厚い整地層を取り除くと奉行前町古墳のマウンドや周濠の輪郭が現れる。また平安時代の遺物を含む土も一部認められたため、平安時代から江戸時代の面と理解した。桃山時代のはっきりとした土層は確認できずこの面に直接整地層が乗っているため、江戸時代の後期まで大きく改変を加えられる事なく続いた面で第 2 面とした。この面では 72 基の土壙や柱穴、溝状の遺構を検出した。最期に奉行前町古墳の周濠部を掘下げ、第 3 面とした。この古墳より古い遺構や遺物が含まれる土層は検出されていない。

第 3 面

古墳時代 5 世紀後半～6 世紀初頭

溝 156（図版 3・9 の 1 と 2・10 の 1 と 2・11 の 7 と 8）

円形の奉行前町古墳の周濠で、溝の外径が直径 17.1 ～ 17.2 m を測る規模である事が判明した。この円の中心点は X-118,608m、Y-21,423m 付近となり南北は調査区北辺の上場あたりに来る。墳丘部は削りとられてしまったものと思われ主体部の痕跡は確認できなかった。幅は 1.0 m ～ 1.5 m で溝の深さは 0.4 ～ 0.6 m を測るが、溝底の標高は東側で 18.5 m、西側で 18.2 m と西側が約 0.3 m ほど低くなっている。古墳成立以降も幾度かあったと思われる地震の影響とも考えられる。

第 2 面

この面は古墳が埋まって以降、先述した整地層が被る直前まで機能していた面で、江戸時代の後期までつづいた面と考えられる。遺構番号が 84 から 155 までのものが検出されている。

平安時代の遺構

土壙 126（図版 2・8 の 1 と 2）

この遺構は古墳の南部に不整形な形であり南北約 6 m、東西約 5m の範囲で、Y-21,423.0 m セクション第 6 層（10YR6/4 にふい黄橙色砂泥、 ϕ 0.5 ～ 7cm の礫少量混）がその堆積土である。最大で 0.12m を測る。11 ～ 12 世紀（平安京Ⅳ～Ⅴ期）の土器が少量ではあるが出土している。このことから、伏見山荘が整備された頃にマウンドが削られた可能性が高い。

これ以外に平安時代のものと推定されるものには土壙 102、柱穴 89・91・149 がある。

中世の遺構

溝 83（図版 2・8 の 1 と 2）

調査区北西部で検出。幅 1.3 ～ 1.6 m、深さ 0.4 m でほぼ南北方向にのび長さ 7.7 m を測る。

25Y4/3 オリーブ褐色泥砂 (φ 0.5 ~ 5cm の礫少量混) が堆積し、中世後半の遺物が出土した。

他に中世と思われる遺構は土壙 98、柱穴 88・95・97 がある。土壙 98、柱穴 97 は土壙 102 と重なる。

近世以降の遺構

柱穴 121 (図版 2・8 の 1 と 2・11 の 6、図 3)

南北 0.40 m、東西 0.38 m で深さは 0.16 m を測る。柱根と思われる木片が残存していたが原形は保っていないものと思われる。

第 2 面で近世以降と判断した遺構は他に、土壙 92・96・111・120・130・142・146、柱穴 87・123 がある。

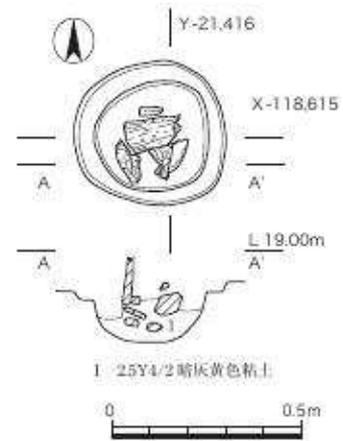


図 3 柱穴 121 実測図 (1/20)

第 1 面

この面は整地層の上面で成立している面で、近世～近代にかけての遺構面と考えている。

近世・近代以降の遺構

柱穴 3 (図版 1・7 の 1 と 2・11 の 1、図 4)

東西 0.31m、南北 0.43m、深さ 0.18m を測る。12cm ~ 18cm 程度の礫が入る。25Y3/2 黒褐色砂泥 やや粘質 (φ 7 ~ 10cm の礫混・土師器片含む) が堆積する。

柱穴 6 (図版 1・7 の 1 と 2・11 の 2、図 5)

東西 0.24m、南北 0.25m、深さ 0.16m を測る。柱穴内には 10YR3/1 黒褐色



図 4 柱穴 3 実測図 (1/20)



図 5 柱穴 6 実測図 (1/20)

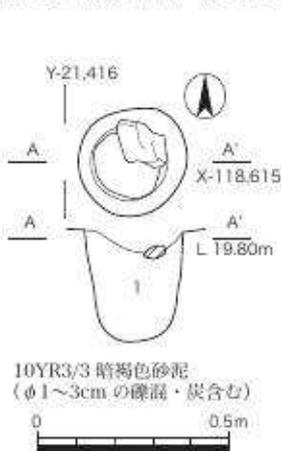


図 6 柱穴 16 実測図 (1/20)

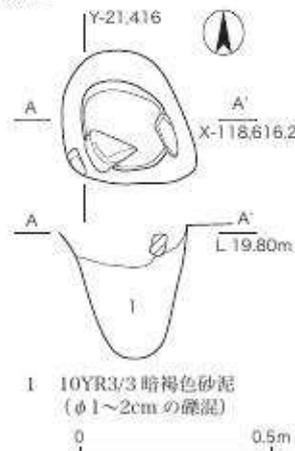


図 7 柱穴 17 実測図 (1/20)

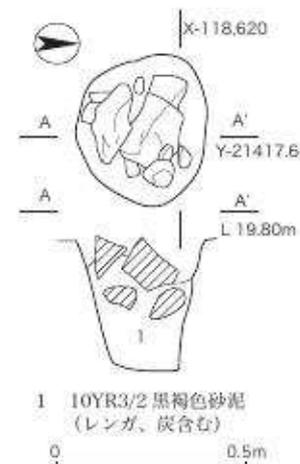


図 8 柱穴 60 実測図 (1/20)

砂泥（φ 3cm の礫混）が堆積する。

柱穴 16（図版 1・7 の 1 と 2・11 の 3、図 6）

東西 0.28m、南北 0.29m、深さ 0.29m を測る。10YR3/3 暗褐色砂泥（φ 1～3cm の礫混・炭含む）が堆積する。

柱穴 17（図版 1・7 の 1 と 2・11 の 4、図 7）

東西 0.35m、南北 0.35m、深さ 0.34m を測る。柱穴内には 10YR3/3 暗褐色砂泥（φ 1～2cm の礫混）が堆積する。

柱穴 60（図版 1・7 の 1 と 2・11 の 5、図 8）

南北 0.34m、東西 0.40m、深さ 0.35m を測る。柱穴内には 10YR3/2 黒褐色砂泥（レンガ・炭含む）が堆積する。

第 1 面での近世・近代以降と時期推定出来る遺構は、土壇 2・8・10・11・22・28・35・36・37・40・47・50・52・55・58・59・61・62・68・69・70・75・79・80・82、柱穴 5・13・14・18・21・25・27・29・30・31・39・46・48・49・51・53・57・63・71・72・73・76・77・78、溝 32・33 などがある。

IV 遺物

出土遺物は整理箱にして30箱ある。なお、時代区分は平安京の土器編年をもとにおこなう。江戸時代以降の土師器・陶磁器が多く出土しているが、奉行前町古墳の周濠から埴輪の破片も多く出土しており2割近くはその破片である。それ以外の平安時代や中世の遺物は極めて少ない状況である。

土器・陶磁器類

溝 156 (奉行前町古墳周濠) 出土土器 (図版 12、図 9)

土師器甕 (1)、須恵器蓋 (2)、須恵器短頸壺 (3)、同甕 (4・5) が出土している。土師器甕は長胴甕と思われる。須恵器蓋は口径が 12.2cm と小さく短頸壺の蓋と見ている。古墳の時期を考える上で重要であるが、杯 H 身が出土していないため時期推定には幅を持たせる必要がある。同じ溝の中から多量の埴輪の破片も出土している。

第 2 面出土土器 (図版 12、図 10)

土師器皿 A (6)、同皿 N (7) が出土。平安京 IV 期の新しいほうに属するものと思われる。11 世紀末から 12 世紀初頭のころと思われる。整地層を取り除き第 2 面を検出している際に出土した。橘俊綱の伏見山荘「臥見亭」があった時期に重なるものと思われる。

整地層出土土器 (図版 12、図 11)

整地層からは土師器皿 Sb (8)、同皿 S (9) が出土している。京都 XIV 期に属する土器群であり 19 世紀前半頃の土器と考えられる。

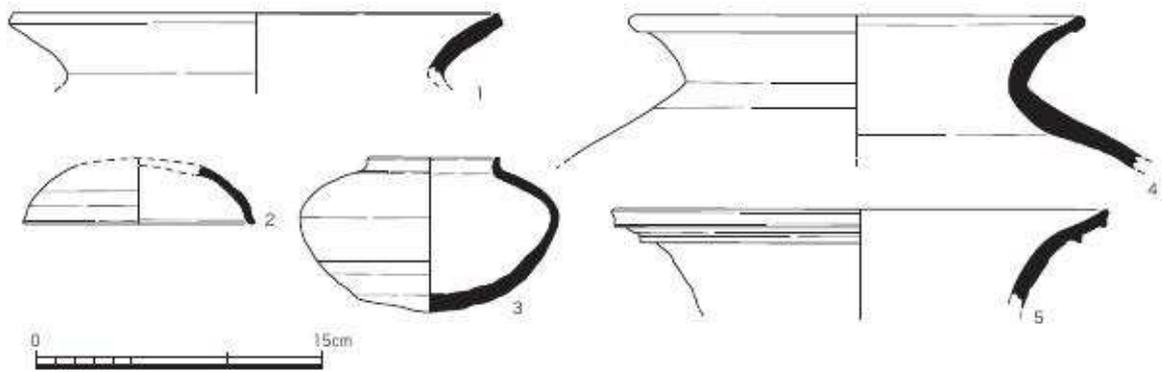


図 9 溝 156 (奉行前町古墳周濠) 出土土器実測図 (1/4)

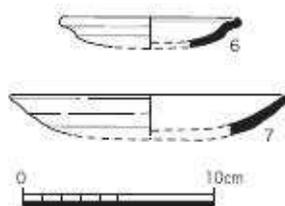


図 10 第 2 面出土土器実測図 (1/4)

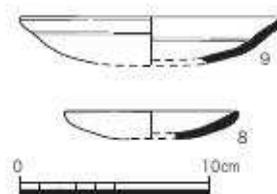


図 11 整地層出土土器実測図 (1/4)

瓦類 (図12)

金箔桐文軒丸瓦 (10)

家紋瓦で「五三の桐」文が施してある。金箔は凸部に貼られているが残存状態はあまり良くない。瓦当表面、側面、裏面は丁寧にナデで仕上げられている。

金箔巴文軒丸瓦 (11)

残存状態は良くないが巴文軒丸瓦の一部であろうと思われる。瓦当表面、側面、裏面は丁寧にナデで仕上げられている。金箔は凸部に貼られているが残存状態はあまり良くない。

唐草文軒平瓦 (12・13)

瓦当表面、側面、裏面は丁寧にナデで仕上げられている。凹面、凸面もナデにより丁寧に仕上げられている。

ここで報告した瓦はすべて整地層から出土したものである。

埴輪類 (図版12～17、図13～16)

溝156(奉行前町古墳周濠)より埴輪の破片が一定量出土した(14～64)。大半は円筒埴輪で人物埴輪(64)も1点出土している。14～19は口縁端部が残るもの、58～63は底部の端部が残っているもので、20～23・26・28～32は円形の透かし部分が確認できるものである。27は全形が復元できないため円筒埴輪でない可能性もある。

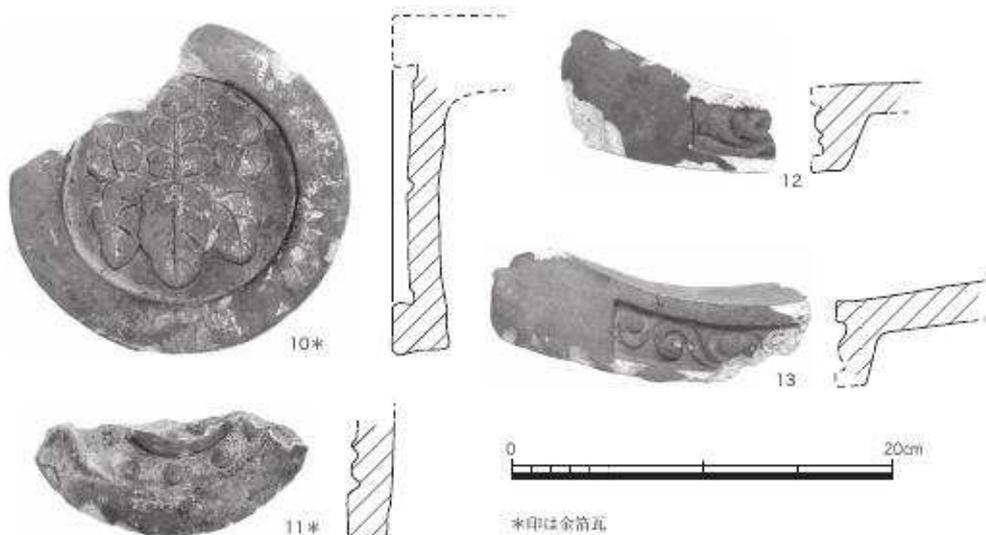


図12 整地層出土瓦実測図・写真 (1/4)

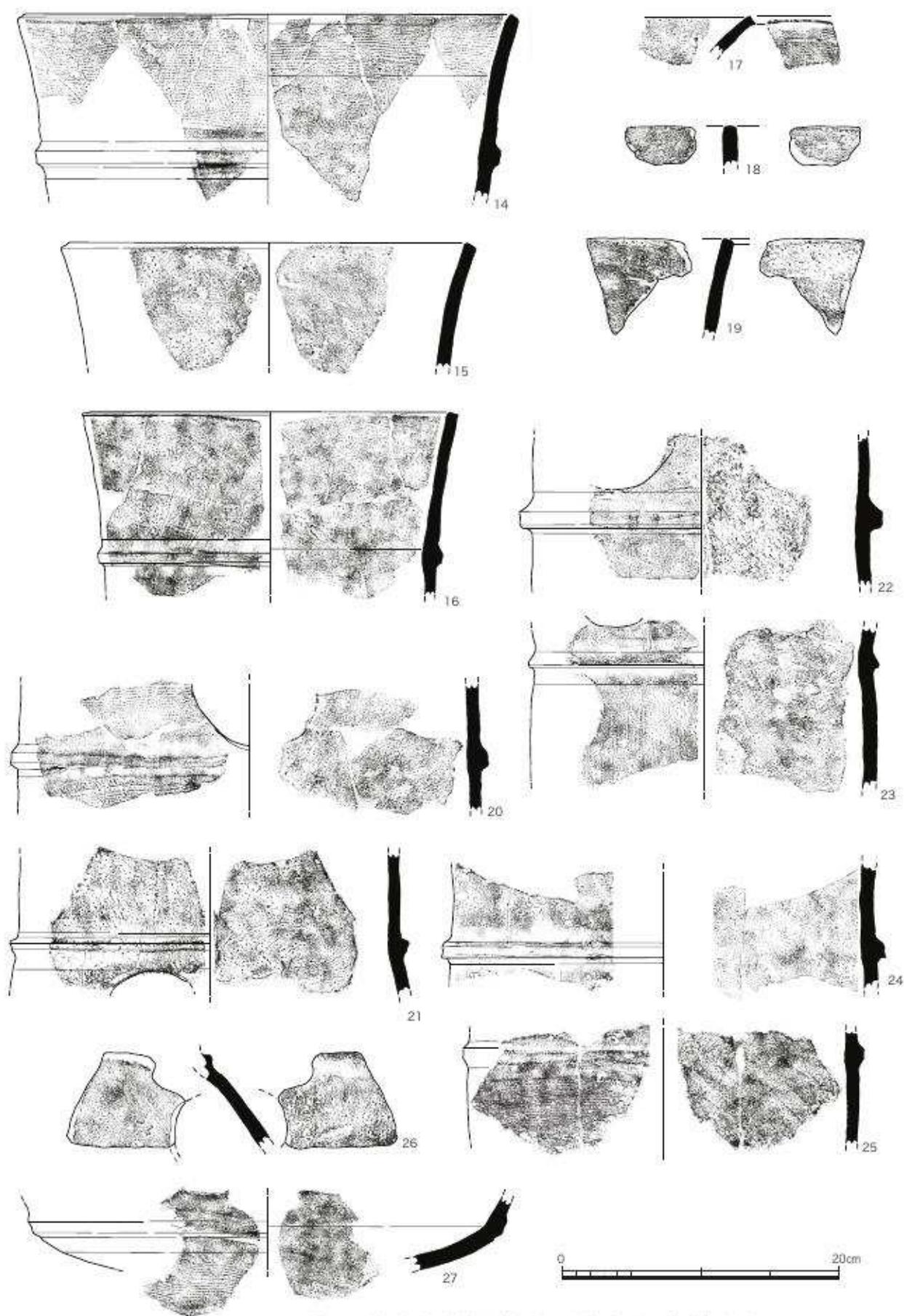


図13 溝156(奉行前町古墳周濠)出土埴輪実測図・拓影(1/4)

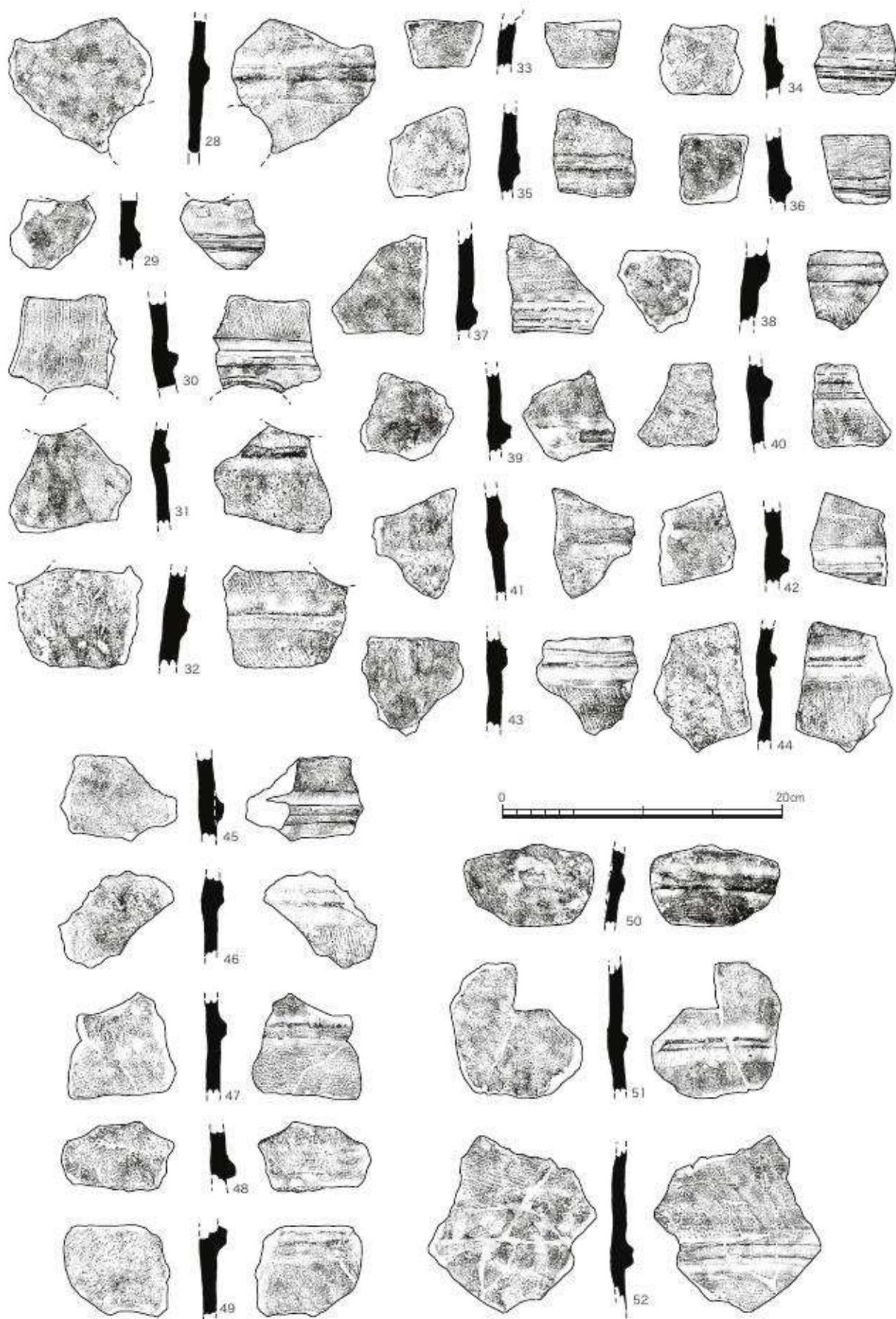


图 14 溝 156 (奉行前町古墳周濠) 出土埴輪実測図・拓影 (1/4)

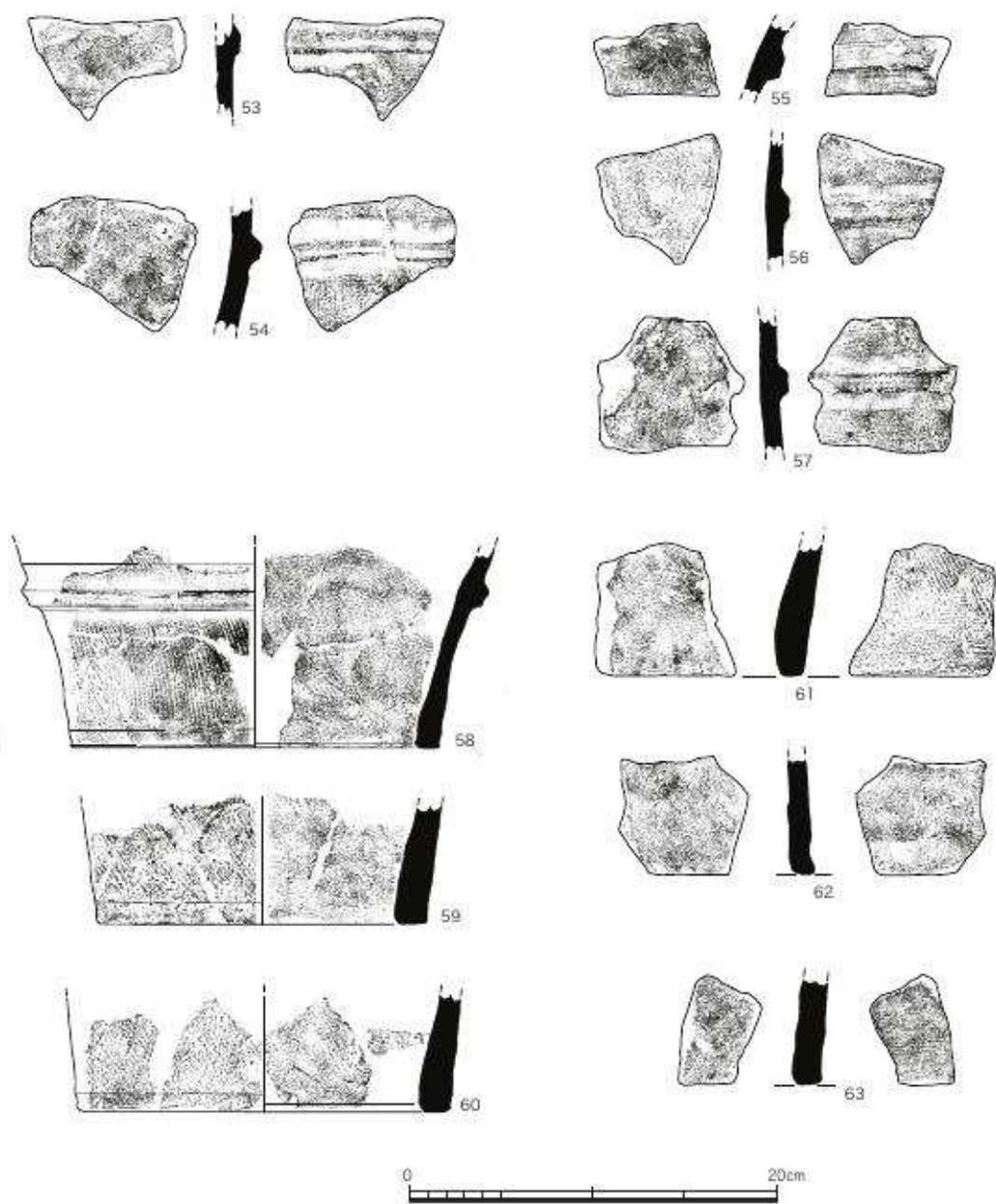


图 15 溝 156 (奉行前町古墳周濠) 出土埴輪実測図・拓影 (1/4)

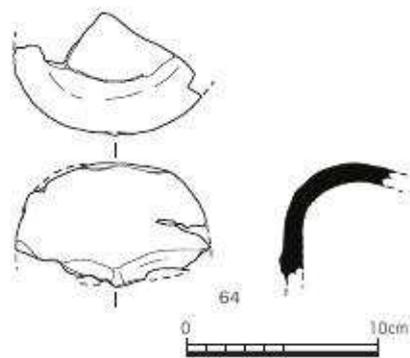


图 16 溝 156 (奉行前町古墳周濠)
出土人物埴輪実測図 (1/4)

V まとめ

調査区の北側で2013年11月～12月に（有）京都平安文化財によって集合住宅建設に伴い発掘調査が行われた。その結果、第2調査区としたところで円墳の周濠の一部が検出され、古墳の南半部が今回の調査区に出てくるものと推定された。2013年の結果と重ね合わせたものが図17に示したものである。溝の外径は17.1～17.2mあり、以前の推定より小規模であることがわかった。埴輪も川西宏幸氏の編年³⁶でV期に属するものと思われ、共伴している須恵器は杯Hなどの編年の基軸となる器形³⁷のものが出土していないが短頸壺やその蓋の形態から陶邑 TK10に近いものと考えられる。

また墳丘が削平された部分の一部に11～12世紀の遺物を含んだ土が被ってくる事から、墳丘が削られたのがこの時期かこの時期以前であると推測できる。この時期の前後には橘俊綱の伏見山荘『臥見亭』が造営されており、桃陵遺跡の一部であると認識できる。今回の調査では周辺で見ついている弥生時代や飛鳥、奈良時代、中世や桃山時代の遺構は発見できなかったが、中世から桃山時代の遺物は少量が検出されたにとどまった。

江戸時代末期から明治にかけては分厚い整地が行われて、景観が一変することとなる。古絵図によると東側の伏見奉行所を支えた与力・同心らの住まいがあったことが推察されるが、実際の桃山～江戸時代の遺構のあり方はかなり薄いものであった。

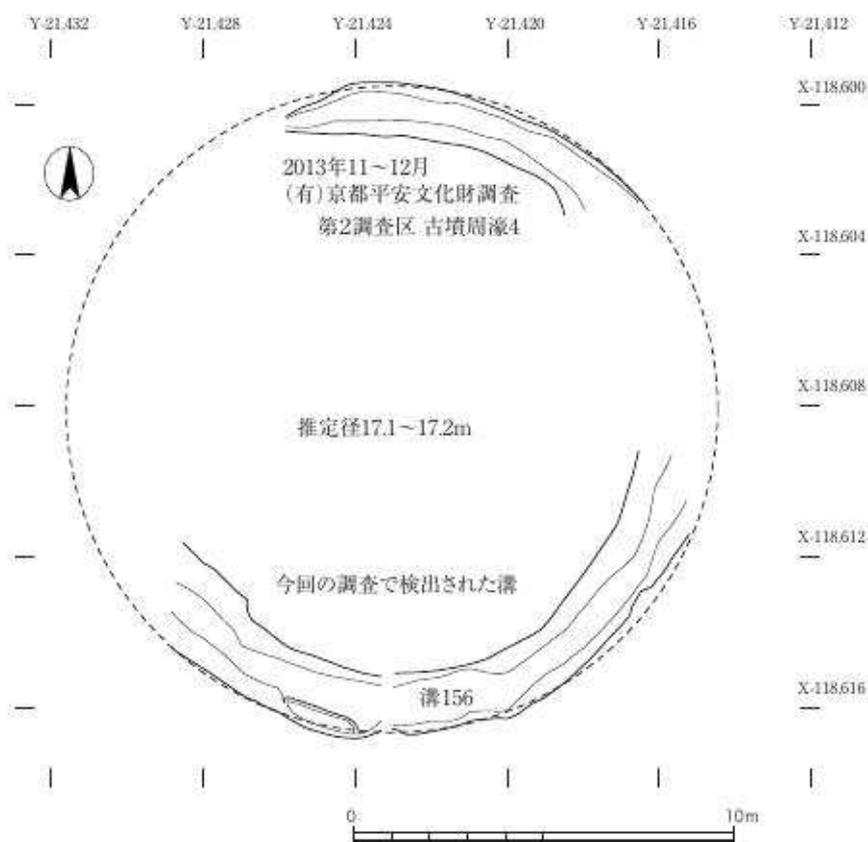


図17 奉行前町古墳全体図(1/200)

〈註〉

- 註1 河野凡洋・卜田健司「伏見城跡・桃陵遺跡」『京都平安文化財発掘調査報告 第2集』(有)京都平安文化財 2014年
- 註2 小森俊寛・原山充志「伏見城跡3」『京都市埋蔵文化財調査概要昭和63年度』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 註3 近藤章子・松吉祐希・中谷正和「伏見城跡・桃陵遺跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-2』(公財)京都市埋蔵文化財研究所 2015年
- 註4 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 註5 註4に同じ
- 註6 川西宏幸「古墳時代政治史序説」塙書房 1998年
- 註7 田辺昭三・平安学園考古学クラブ「陶邑古窯址群I」『研究論集第10号』 1966年

〈参考文献〉

- 京都市編「史料京都の歴史 16 伏見区」平凡社 1991年
- 「京都市の地名 日本歴史地名体系27」平凡社 1979年
- 京都市住宅局・伏見城研究会「伏見奉行所発掘調査報告Ⅱ - 桃陵田地立て替え工事に伴う埋蔵文化財調査 -」 1997年
- 加藤次郎「豊伏見城ノ図」『伏見桃山の文化史』
- 村尾政人他「伏見城跡・桃陵遺跡 公務員宿舍伏見住宅(仮称)整備事業発掘調査報告」西近畿文化財調査研究所 2010年
- 第52回埋蔵文化財研究集会「埴輪-円筒埴輪政策技法の観察・認識・分析-発表要旨集」 2003年埋蔵文化財研究会 主催:埋蔵文化財研究会・大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター 共催:兵庫県教育委員会

表1 遺物概要表

時代	内容	コンテナ数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
古墳時代	土師器、須恵器、埴輪		土師器1点 須恵器4点 埴輪51点		
平安時代	土師器		土師器2点		
桃山時代	金箔軒丸瓦、軒平瓦		金箔軒丸瓦2点、軒平瓦2点		
江戸時代	土師器、陶磁器		土師器2点		
合計		32箱	64点(2箱)	30箱	0箱

表2 掲載遺物一覧表

口径・器高の単位は cm

番号	種類	器形	口径	器高	色調・特徴他	遺構・層	実測番号
1	土師器	甕	26.0	-	10YR8/2 灰白色、φ 1.5mm 以下の小礫含む。内外面ナデか。摩滅する	溝 156	22
2	須恵器	蓋	12.2	-	N6/ ~ N5/ 灰色、φ 1mm 以下の小礫含む	溝 156	5
3	須恵器	壺(短頸壺)	7.0	8.2	外面 N8/ 灰白色 ~ 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色、内面 10Y5/1 灰色。内面 ~ 外面中下位ナデ、外面底部 ~ 中下位ケズリ、外面肩部に降灰あり	溝 156	6
4	須恵器	甕	24.1	-	7.5Y3/1 オリーブ黒色 ~ N5/ 灰色、φ 3mm 以下の小礫含む、外面頸部以下は平行タタキ痕、内面頸部以下に青海波のタタキ受け痕	溝 156	7
5	須恵器	甕	26.2	-	N3/ 暗灰色、φ 1mm 以下の小礫少量含む	溝 156	8
6	土師器	皿 A	9.6	-	5YR6/8 橙色、φ 0.5mm 以下の小礫含む	第 2 面	3
7	土師器	皿 N	14.6	-	7.5YR8/6 浅黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む	第 2 面	4
8	土師器	皿 Sb	9.2	-	7.5YR8/4 浅黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む	整地層	2
9	土師器	皿 S	14.0	-	10YR8/3 浅黄橙色、φ 1.5mm 以下の小礫含む	整地層	1
10	軒先丸瓦	-	18.0	-	金箔桐文、N3/ 暗灰色、φ 2mm 以下の小礫含む	整地層	9
11	軒先丸瓦	-	-	-	金箔巴文、N4/ 灰色、φ 2mm 以下の小礫含む	整地層	10
12	軒先平瓦	-	-	-	N3/ 暗灰色、φ 1mm 以下の小礫含む	整地層	12
13	軒先平瓦	-	-	-	N4/ 灰色、φ 2mm 以下の小礫含む	整地層	11
14	円筒埴輪	-	36.2	-	7.5YR7/4 にぶい橙色 ~ 7.5YR6/6 橙色。φ 1mm 以下の小礫含む。内面口縁下 4cm 幅で横ハケ、他ナデ。外面縦ハケ後横ハケ。タガ部分は 3.5cm 幅でヨコナデ	溝 156	50
15	円筒埴輪	-	30.0	-	7.5YR7/6 橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面口縁端部から 3cm 幅でヨコナデ、他オサエとナデ。口縁端部から外面はナデ	溝 156	53
16	円筒埴輪	-	27.2	-	7.5YR7/4 にぶい橙色、φ 2mm 以下の小礫含む。内面タガ部分はオサエ、内面から外面はナデ。タガ部分は約 2.5cm 幅でヨコナデ	溝 156	43
17	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR6/6 橙色、φ 0.5mm 以下の小礫含む。内面外面は横ハケ。端部はナデ	溝 156	40
18	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/4 にぶい橙色、φ 2mm 以下の小礫含む。内面斜め方向のハケ。端部はナデ、外面は横ハケ	溝 156	34
19	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/4 にぶい橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。端部はナデ、内外面は横ハケ	溝 156	35
20	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR6/6 橙色、φ 1.5mm 以下の小礫含む。円形の透かしあり。内面はナデ。外面は縦ハケ後横ハケ。タガ部分は約 4cm 幅でヨコナデ。タガ部分の径は 32.3cm	溝 156	49
21	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR6/6 橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。円形の透かしあり。内面ナデ、オサエ。外面縦ハケ後ナデ。タガ部分は約 3cm 幅でヨコナデ。タガ部分の径は 29.0cm	溝 156	58
22	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/6 橙色、φ 6mm 大の石、φ 2mm 以下の小礫含む。円形の透かしあり。内面摩滅、横ハケ残る。外面縦ハケ、タガ部分は約 4cm 幅でヨコナデ。タガ径は 23.2cm	溝 156	55
23	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/6 橙色、φ 1.5mm 以下の小礫含む。円形の透かしあり。内外面ともナデ。タガ部分は約 3cm 幅でヨコナデ。タガ部分の径は 22.7cm	溝 156	57
24	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR8/4 浅黄橙、φ 2mm 以下の小礫含む。内面指オサエ、外面ナデ、タガ部分は幅 2.5cm ほどでヨコナデ。タガ部分の径は 32.2cm	溝 156	42
25	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR8/4 浅黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面はナデ、外面は縦ハケ後横ハケか。タガ部分は約 3cm の幅でヨコナデ。タガ部分の径は 29.0cm	溝 156	36
26	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR6/4 にぶい橙色、φ 2mm 以下の小礫含む。円形の透かしあり。内外面ナデ	溝 156	54

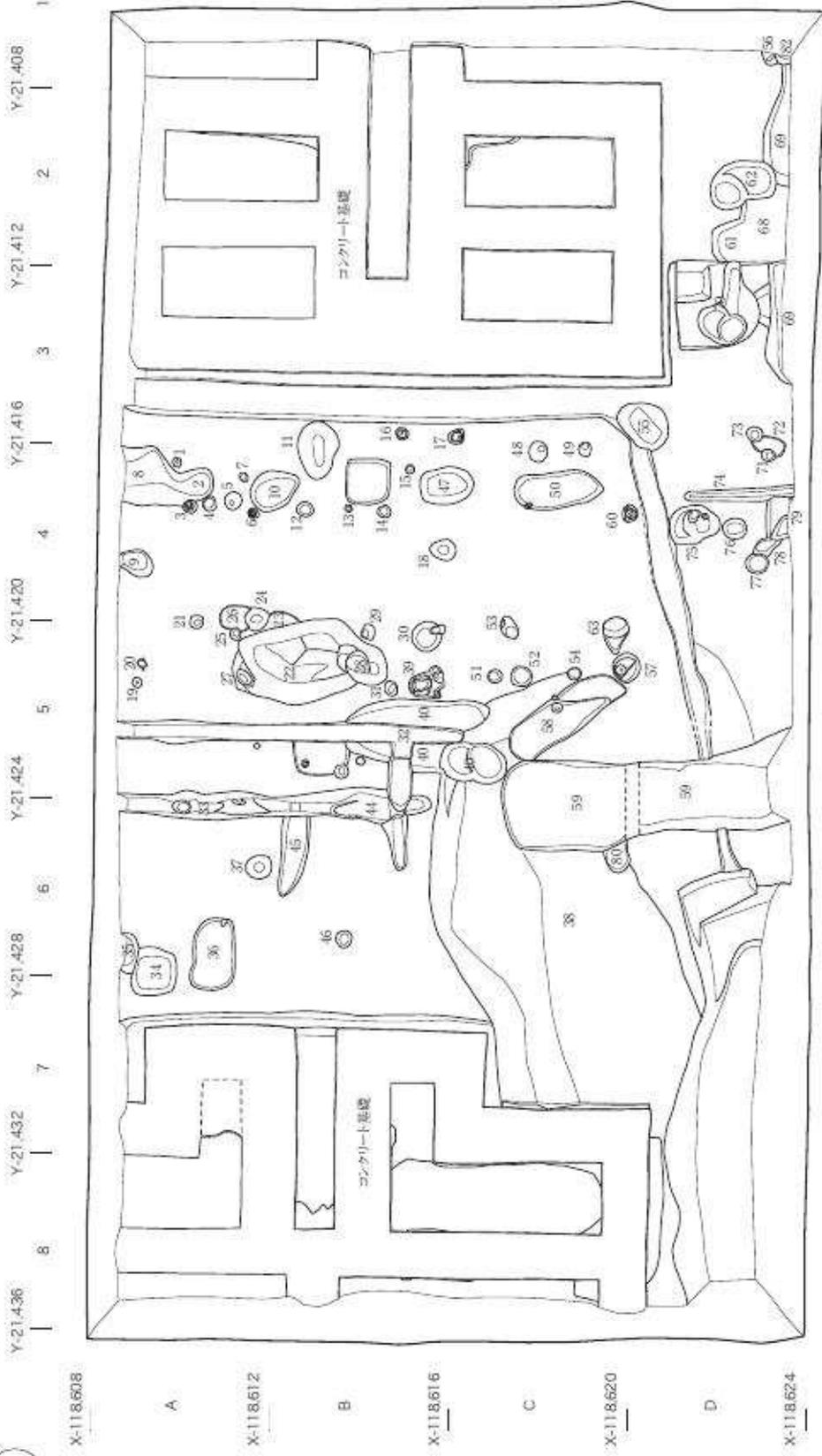
番号	種類	器形	口径	器高	色調・特徴他	遺構・層	実測番号
27	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/4 浅黄橙色、φ 1.5mm 以下の小礫含む。内面はナデ、外面上位はナデ、下位は横ハケ	溝 156	41
28	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/3 浅黄橙色、φ 0.5mm 以下の小礫含む。円形の透かしあり。内面指オサエ、ナデ。外面タガを含め 3.5cm 幅でヨコナデ。ヨコナデ部分以外は縦ハケ後横ハケ	溝 156	28
29	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/2 灰白色、φ 1mm 以下の小礫含む。円形の透かしあり。内面ナデ、外面縦ハケ。タガ部分を含み幅 3cm くらいでヨコナデ	溝 156	21
30	円筒埴輪	-	-	-	内面 10YR8/4 浅黄橙色、外面 7.5YR7/6 橙色、φ 5mm 以下の小礫含む。内面縦ハケ、外面目、縦ハケ、タガ部分を含み幅 2.5cm くらいのヨコナデ	溝 156	14
31	円筒埴輪	-	-	-	10YR7/4 にぶい黄橙色、φ 2mm 以下の小礫含む。円形の透かしあり。内面オサエ、外面ナデ。タガ部分は約 3.5cm 幅でヨコナデ	溝 156	61
32	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/3 浅黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面はナデ。外面は斜め方向のハケ。タガ部分は約 4cm 幅でヨコナデ	溝 156	62
33	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR6/6 橙色、φ 1.5mm 以下の小礫含む。内面は横ハケ、外面は横ハケ、タガ部分はヨコナデ	溝 156	33
34	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/4 にぶい橙色、φ 1～3mm 以下の小礫含む。内面オサエ、外面横ハケ、タガ部分は約 3cm の幅でヨコナデ	溝 156	15
35	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/3 浅黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面は指オサエか、外面は縦ハケ、タガ部分を含み 3.5cm の幅でヨコナデ	溝 156	23
36	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/4 にぶい橙色、φ 0.5mm 以下の小礫含む。内面ナデ、外面横ハケ、タガ部分を含み幅 2.5cm くらいでヨコナデ	溝 156	19
37	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/4 にぶい橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面ナデ、外面横ハケ、タガ部分を含み幅 2.5cm くらいでヨコナデ	溝 156	18
38	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/2 灰白色、φ 0.5mm 以下の小礫含む。内面ナデ、外面斜めのハケ、タガ部分を含み幅 3cm くらいでヨコナデ	溝 156	20
39	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/4 浅黄橙色、φ 1.5mm 以下の小礫含む。内面、外面はナデ。タガ部分は約 3cm 幅でヨコナデ	溝 156	47
40	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/3 浅黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面タガ位置は横ハケ、以下はオサエ、外面は横ハケ、タガ部分を含み 2.5cm の幅でヨコナデ	溝 156	16
41	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/2 灰白色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面ナデか、外面横ハケか(摩滅する)、タガ部分は 2.5cm 幅でヨコナデ	溝 156	29
42	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/6 橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面はナデ、外面縦ハケ、タガ部分は約 2.5cm 幅でヨコナデ	溝 156	46
43	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/2 灰白色、φ 0.5mm 以下の小礫含む。内面はナデ、外面は縦ハケ後横ハケか。タガを含み 2.5～3cm ほどの幅でヨコナデ	溝 156	38
44	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/6 橙色、φ 1.5mm 以下の小礫含む。内面はナデ、オサエ。外面縦ハケ後ナデ、タガ部分は約 3.5cm 幅でヨコナデ	溝 156	59
45	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/2 灰白色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面ナデ、外面目、縦ハケ後横ハケ、タガ部分を含み幅 3cm くらいのヨコナデ	溝 156	13
46	円筒埴輪	-	-	-	10YR7/3 にぶい黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面ナデ、外面縦ハケ、タガ部分はヨコナデ	溝 156	25
47	円筒埴輪	-	-	-	5Y6/6 オリーブ色、φ 0.5mm 以下の小礫含む。内面はナデ、外面横ハケ。タガ部分を含み幅 3cm くらいでヨコナデ	溝 156	52
48	円筒埴輪	-	-	-	10YR7/3 にぶい黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面横ハケ、外面横ハケ、タガ部分は幅 2.5cm ほどでヨコナデ	溝 156	32
49	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR6/6 橙色、φ 1.5mm 以下の小礫含む。内面は摩滅、外面は縦ハケ、タガ部分はヨコナデ	溝 156	24
50	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/3 にぶい橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面摩滅、剥離する。外面は横ハケ、タガを含み 2cm ほどの幅でヨコナデ	溝 156	37
51	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/4 にぶい橙色、φ 0.5mm 以下の小礫含む。内外面ナデ。タガ部分を含み幅 3cm くらいでヨコナデ	溝 156	48
52	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/4 にぶい橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面横ハケ、タガにあたる部分はオサエ、外面横ハケ、タガ部分ナデ	溝 156	39
53	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR8/4 浅黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面ナデと指オサエ、外面タガ部分含みヨコナデ	溝 156	30

番号	種類	器形	口径	器高	色調・特徴他	遺構・層	実測番号
54	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/4 浅黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面はナデか。外面は縦ハケ、タガ部分は約 3cm 幅でヨコナデ	溝 156	56
55	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/6 橙色、φ 0.5mm 以下の小礫含む。内面ナデ。外面横ハケ、タガ部分は 3cm 幅でヨコナデ	溝 156	31
56	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR6/4 にぶい橙色、φ 0.5mm 以下の小礫含む。内面はナデ、外面タガより上は縦ハケ後ナデ、下は横ハケ、タガ部分は約 2.5cm 幅でヨコナデ	溝 156	45
57	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR6/6 橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面はナデ、外面タガより上は横ハケ、下は縦、タガ部分は約 2.5cm 幅でヨコナデ	溝 156	44
58	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/6 橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面はナデ、外面は縦ハケ、タガ部分は、約 3.5cm 幅でヨコナデ。端部はナデ。底部径は 20.0cm	溝 156	51
59	円筒埴輪	-	-	-	10YR7/4 にぶい黄橙色～10YR8/3 浅黄橙、φ 1mm 以下の小礫含む。内面、端部ナデ、オサエ。外面は斜め方向のハケ。底径 18.0cm	溝 156	63
60	円筒埴輪	-	-	-	10YR7/4 にぶい黄橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。底径 20.4cm。端部から内面ナデ。外面は斜め方向のハケ	溝 156	64
61	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/4 浅黄橙色、φ 4mm 以下の小礫含む。内面はナデ、外面は端部に近い部分が横ハケ、上位は縦ハケ	溝 156	26
62	円筒埴輪	-	-	-	7.5YR7/6 橙色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面から外面約 2cm くらいまでナデ。端部はやや丸みを帯びる。外面縦ハケ	溝 156	27
63	円筒埴輪	-	-	-	10YR8/2 灰白色、φ 1mm 以下の小礫含む。内面オサエ、外面横ハケ一部縦ハケ被る。端部は摩滅する	溝 156	17
64	人物埴輪	-	-	-	5YR6/8 橙色～7.5YR8/4 浅黄橙色、φ 0.5mm 以下の小礫含む。器表は摩滅する	溝 156	65

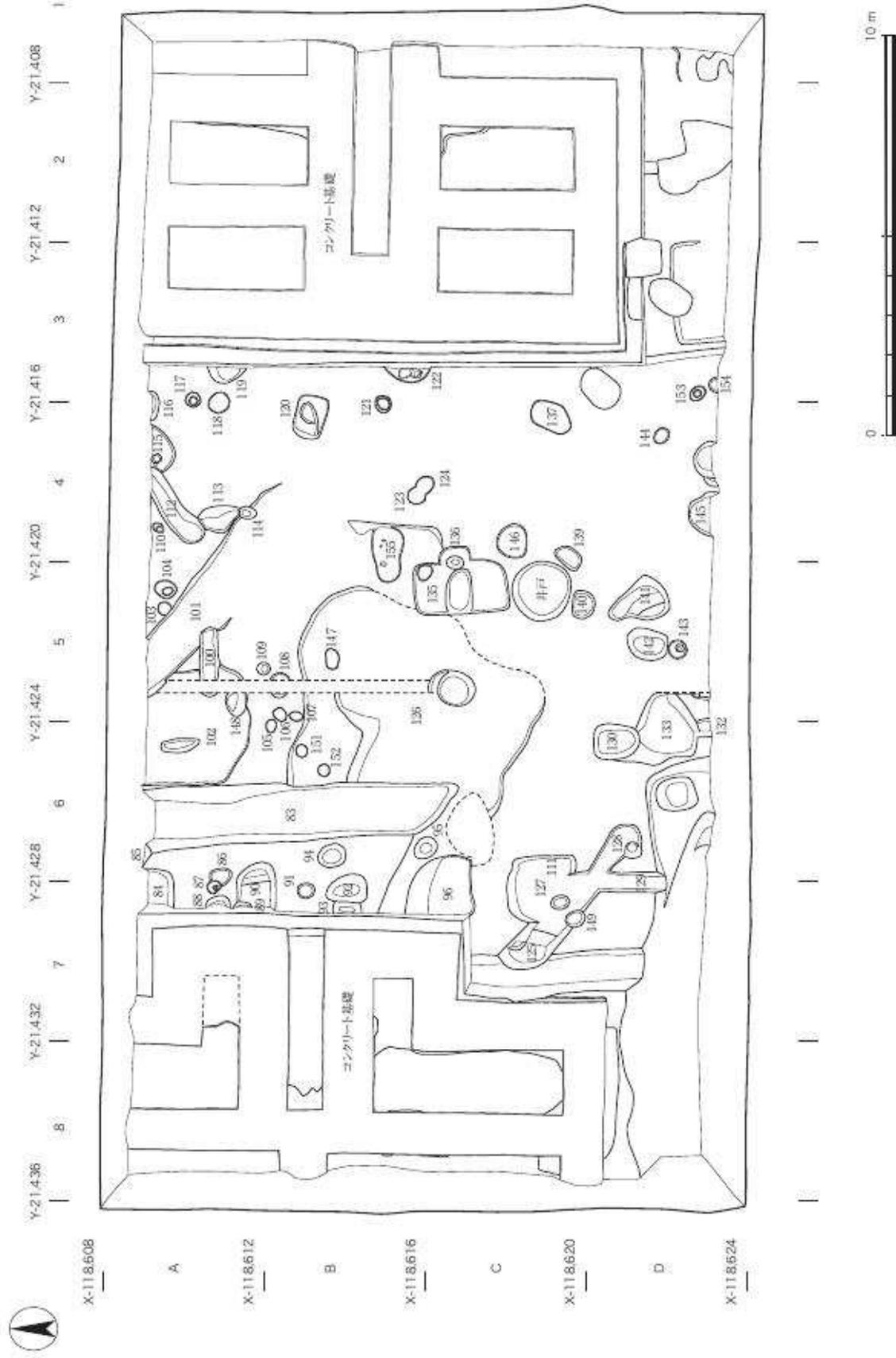
報告書抄録

ふりがな	ふしみじょうあと どうりょういせき ぶぎょうまえちようこふん							
書名	伏見城跡・桃陵遺跡・奉行前町古墳							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	上村憲章							
編集機関	古代文化調査会							
所在地	〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404							
発行年月日	2017年1月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
伏見城跡 桃陵遺跡 奉行前町古墳	京都市伏見区 奉行前町3番	26100	1172	34度	135度	2016.08.22	480 m ²	マンション 建設
			1181	55分	45分	～		
			1216	50秒 03	55秒 92	2016.10.28		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
伏見城跡 桃陵遺跡 奉行前町古墳	城跡・集落跡・ 古墳	弥生～江戸時代	円墳周濠、柱穴、 土城、溝	土師器・甕、須 恵器・壺・甕、 埴輪	奉行前町古墳の 周濠が検出され その規模が明らか となった。周濠の 外径は17.1～17.2m である。			

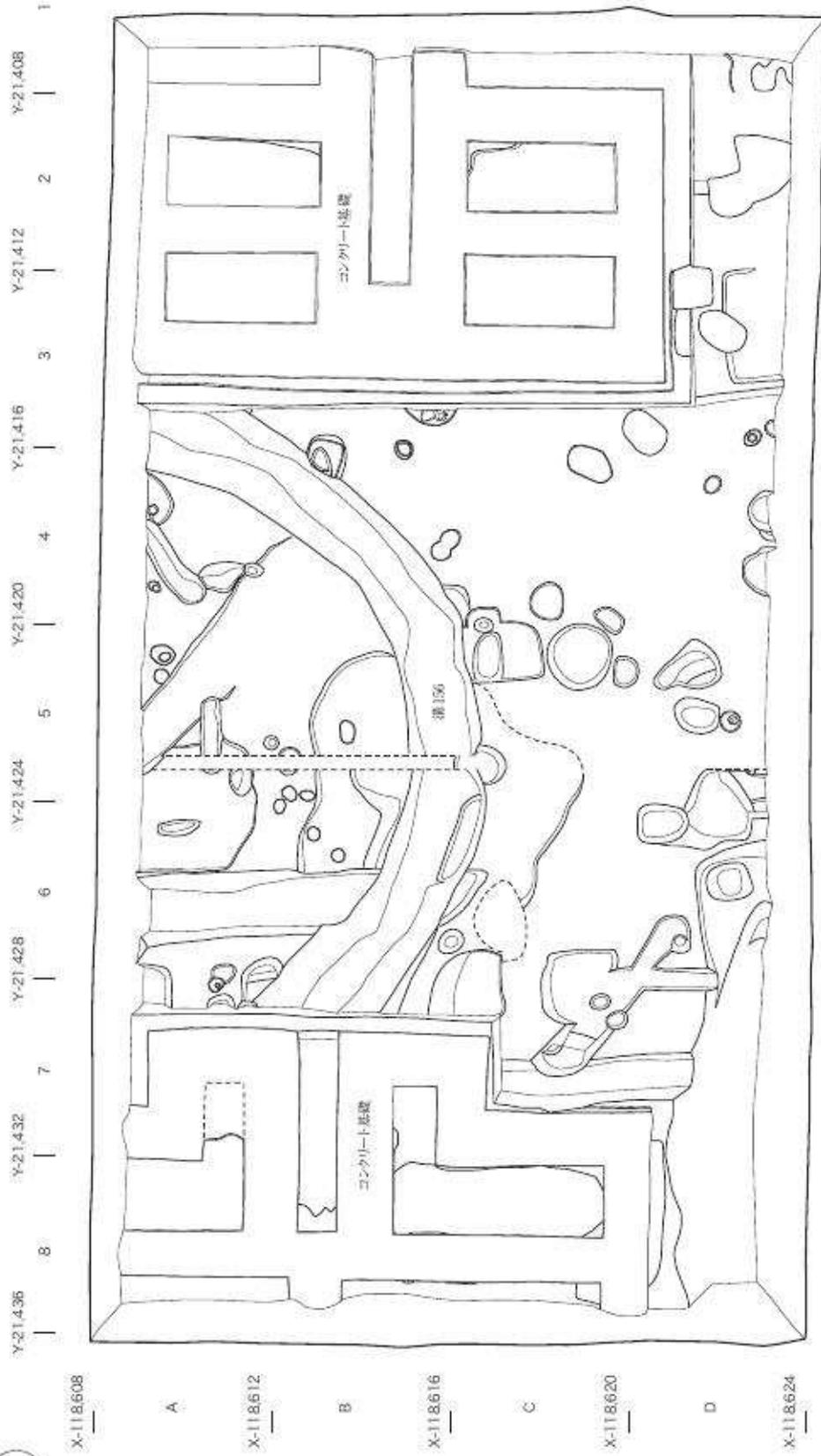
圖 版



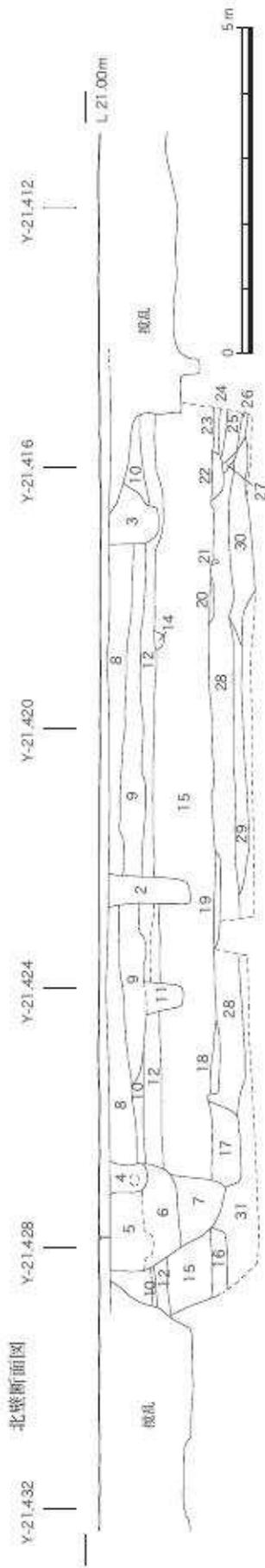
第1面平面実測図 (1/150)



第2面平面実測図 (1/150)



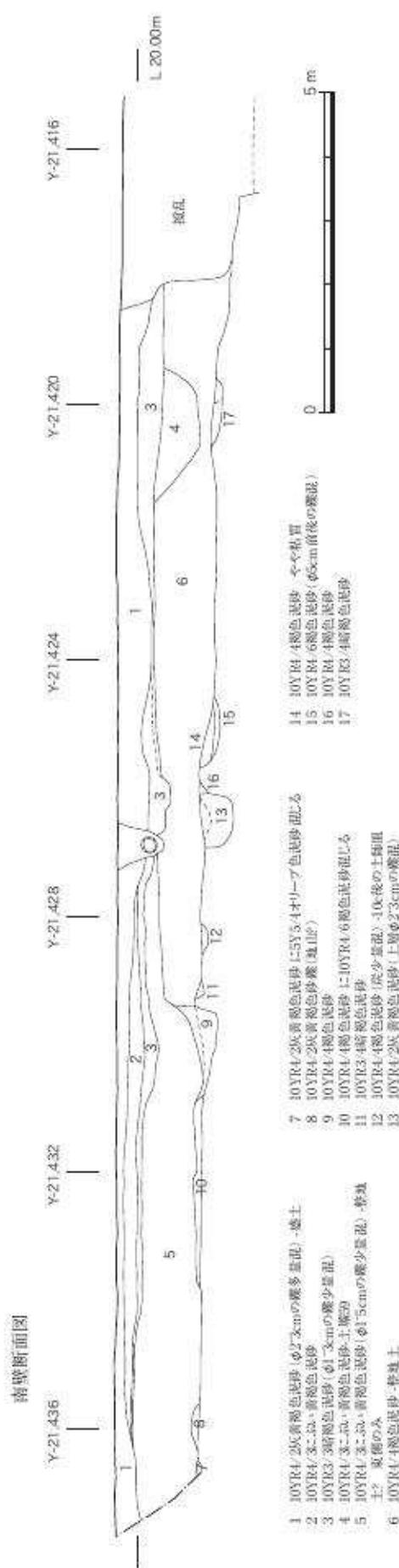
第3面平面実測図 (1/150)



- 1 25Y7 1R6白土(砕石)
- 2 75Y5.3 灰オリーブ色土(ガラス管)
- 3 25Y4.28R6 黄褐色土(φ0.5~11cmの礫中量混-土質、炭含む)
- 4 5Y5.2 灰オリーブ色土(φ0.5~5cmの礫少量混-土質含む)
- 5 5Y5.4 オリーブ色土(φ0.5~8cmの礫少量混-炭含む)
- 6 5Y4.3 灰オリーブ色土(φ0.5~5cmの礫少量混)
- 7 5Y4.4 灰オリーブ色土(φ0.5~5cmの礫少量混)
- 8 75Y7.1R6白土(砕石)
- 9 25Y4.1 オリーブ色土(φ0.5~10cmの礫少量混)
- 10 10YR4.2R6 黄褐色土(φ0.5~20cmの礫少量混)
- 11 25Y5.4 黄褐色土(φ0.5~6cmの礫少量混-炭土含む)

- 12 5Y5.3 灰オリーブ色土(φ0.5~4cmの礫少量混)
- 13 10YR4.3C.4 黄褐色土(φ0.5~2cmの礫少量混)
- 14 5Y5.4 オリーブ色土(φ0.5~4cmの礫少量混)
- 15 10YR4.4 黄褐色土(φ0.5~10cmの礫少量混-土質、炭含む)
- 16 5Y4.3 灰オリーブ色土(φ0.5~6cmの礫少量混-炭土含む)
- 17 25Y4.2 オリーブ色土(φ0.5~5cmの礫少量混)
- 18 10YR4.3C.4 黄褐色土(φ0.5~4cmの礫少量混)
- 19 25Y4.6 オリーブ色土(φ0.5~6cmの礫少量混)
- 20 10YR3.3 黄褐色土(φ0.5~2cmの礫少量混)
- 21 25Y5.3 灰オリーブ色土(φ0.5~3cmの礫少量混)
- 22 10YR2.2 黄褐色土(φ0.5~3cmの礫少量混-炭、炭土含む)

- 23 10YR4.6 黄褐色土(φ0.5~2cmの礫少量混-炭、炭土含む)
- 24 10YR3.4 黄褐色土(φ0.5~1cmの礫少量混-炭、炭土含む)
- 25 5Y3.2 オリーブ色土(焼土含む)
- 26 10YR3.2 黄褐色土(φ0.5~2cmの礫少量混)
- 27 5Y3.3 灰オリーブ色土(φ0.5~2cmの礫少量混)
- 28 10YR4.6 黄褐色土(φ0.5~9cmの礫少量混)
- 29 5Y5.4 オリーブ色土(φ0.5~6cmの礫少量混)
- 30 25Y4.4 オリーブ色土(炭土含む)
- 31 25Y4.6 黄褐色土(φ0.5~1cmの礫少量混)
- 23~27: 層156堆積土



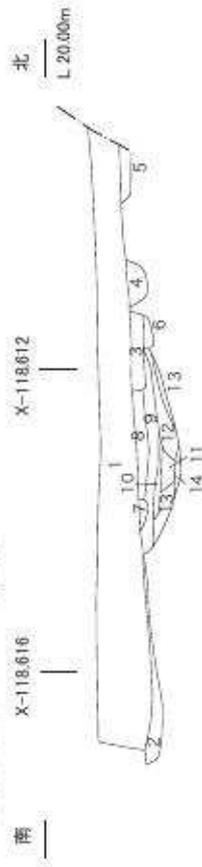
- 1 10YR4.2R6 黄褐色土(φ2.3cmの礫少量混)-炭土
- 2 10YR4.3C.4 黄褐色土
- 3 10YR3.3 黄褐色土(φ1.3cmの礫少量混)
- 4 10YR4.3C.4 黄褐色土(炭土、炭)
- 5 10YR4.3C.4 黄褐色土(φ1.5cmの礫少量混)-砕石
- 6 10YR4.4 黄褐色土-砕石

- 7 10YR4.2R6 黄褐色土(5Y5.4 オリーブ色土混入)
- 8 10YR4.2R6 黄褐色土(炭土)
- 9 10YR4.4 黄褐色土
- 10 10YR4.4 黄褐色土
- 11 10YR3.4 黄褐色土
- 12 10YR4.4 黄褐色土(炭少量混)
- 13 10YR4.2R6 黄褐色土(上層φ2.3cmの礫混)

- 14 10YR4.4 黄褐色土-ヤブ草
- 15 10YR4.6 黄褐色土(φ5cm前後の礫混)
- 16 10YR4.4 黄褐色土
- 17 10YR3.4 黄褐色土

壁面実測図(1/100)

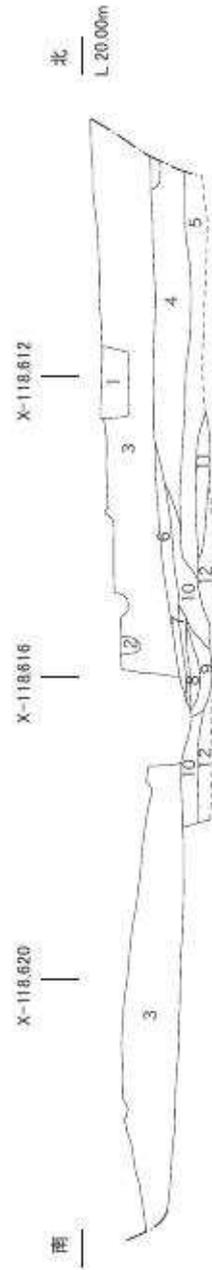
Y-2L4290m セクション断面図



- 1 10YR3/4 暗褐色砂泥
- 2 7.5YR3.4に多い褐色砂泥
- 3 10YR3/2 黒褐色砂泥 (土師器片微量含む)
- 4 7.5YR3/2 黒褐色砂泥
- 5 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 6 7.5YR2/2 黒褐色砂泥
- 7 10YR3/4 暗褐色砂泥 (φ0.2-3cmの礫混)
- 8 7.5YR3/4 暗褐色砂泥 (φ1-4cmの礫混、土師器片含む)
- 9 7.5YR3/2 暗褐色砂泥 やや粘質 (土師器片含む)
- 10 5YR3/1 黒褐色シルト
- 11 7.5YR3/1 黒褐色シルトに10YR4/3に多い暗褐色まだらに混じる (土師器片含む)
- 12 7.5YR/2 黒褐色シルト (φ1-5cmの礫混、須砂片多量含む)
- 13 7.5YR/2 黒褐色粘土
- 14 10YR4/3に多い黄褐色砂泥 (φ2-4cmの礫混、相砂多量含む)

8-14-標156

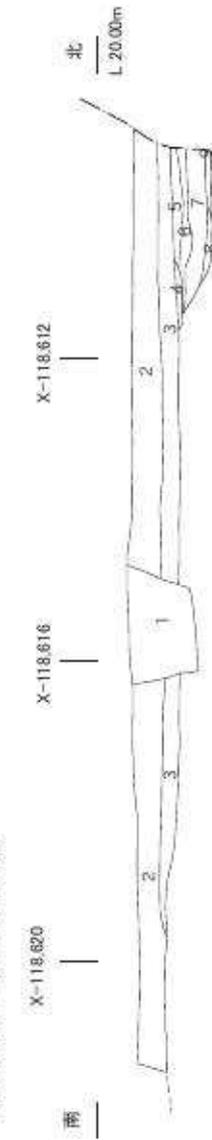
Y-2L4230m セクション断面図



- 1 10YR3/1 黒褐色砂泥(φ1-5cmの礫少量混)
- 2 10YR3/3 暗褐色砂泥(灰、土師器片少量含む)
- 3 10YR4/3に多い黄褐色砂泥(灰、土師器片少量含む)
- 4 10YR4/6 褐色砂泥(φ5cmまでの礫少量混、灰含む)
- 5 2.5Y4/4(1)-7 褐色砂泥
- 6 10YR6/4に多い黄褐色砂泥(φ0.5-7cmの礫少量混)
- 7 10YR3/4に多い黄褐色砂泥(φ5cmまでの礫少量混、土師器片含む)
- 8 10YR4/4 褐色砂泥+10YR2/1 黒褐色砂泥(φ5cmまでの礫少量混、土師器片含む)
- 9 10YR3/4 暗褐色砂泥(φ5cmまでの礫中量混)
- 10 10YR4/4 褐色砂泥(φ5cmまでの礫中量混)
- 11 2.5Y6/1 黄灰色シルト+2.5Y6/6 明黄褐色シルト(φ8cmまでの礫少量混)
- 12 10YR5/6 黄褐色砂泥(φ5cmまでの礫少量混)

7-10-標156

Y-2L415.2m セクション断面図



- 1 2.5Y4/3(1)-7 褐色砂泥(φ8cmまでの礫少量混、土師器片、灰含む)
- 2 2.5Y3/2(1)-7 褐色砂泥(φ0.5-3cmの礫中量混、土師器片、灰含む)
- 3 10YR1/3に多い黄褐色砂泥(土師器片、灰含む)
- 4 10YR4/4 褐色砂泥(粘質)
- 5 7.5YR3/3 暗褐色砂泥 (土師器片含む)
- 6 7.5YR2/2 暗褐色シルト(φ3cmまでの礫混、土師器片含む)
- 7 10YR2/2 暗褐色粘土(φ3-4cmの礫微量混、相砂含む)
- 8 7.5YR4/3 褐色粘土
- 9 10YR2/2 暗褐色粘土

5-9-標156



セクション断面実測図 (1/100)



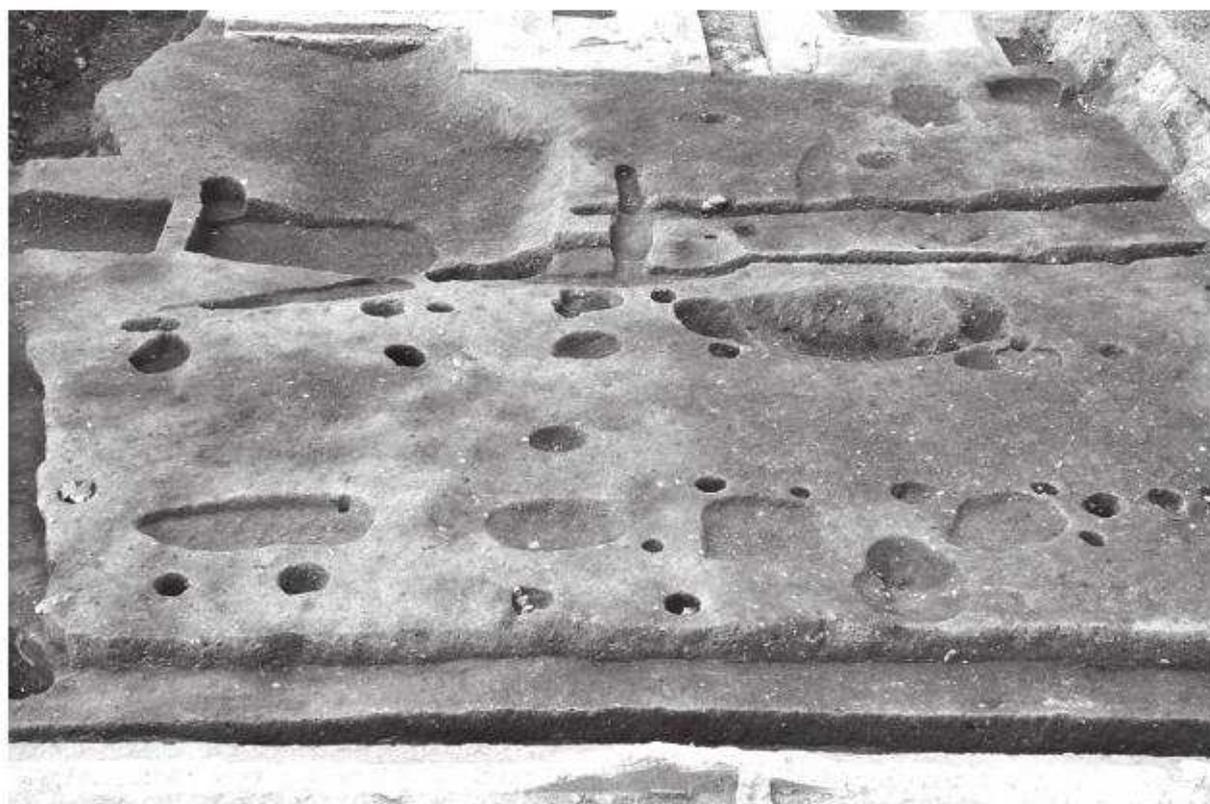
1 調査前風景（北東から）



2 第1面近景（東から）



1 第1面全景（東から）



2 第1面中央部（東から）



1 第2面全景（東から）



2 第2面中央部（東から）



1 第3面溝 156 (奉行前町古墳周濠) (東から)



2 第3面溝 156 (奉行前町古墳周濠) (南から)



1 第3面溝 156 (奉行前町古墳周濠) (北東から)



2 第3面奉行前町古墳断割り状況 (北東から)



1 柱穴3 (南から)



2 柱穴6 (南から)



3 柱穴16 (南から)



4 柱穴17 (南から)



5 柱穴60 (南から)



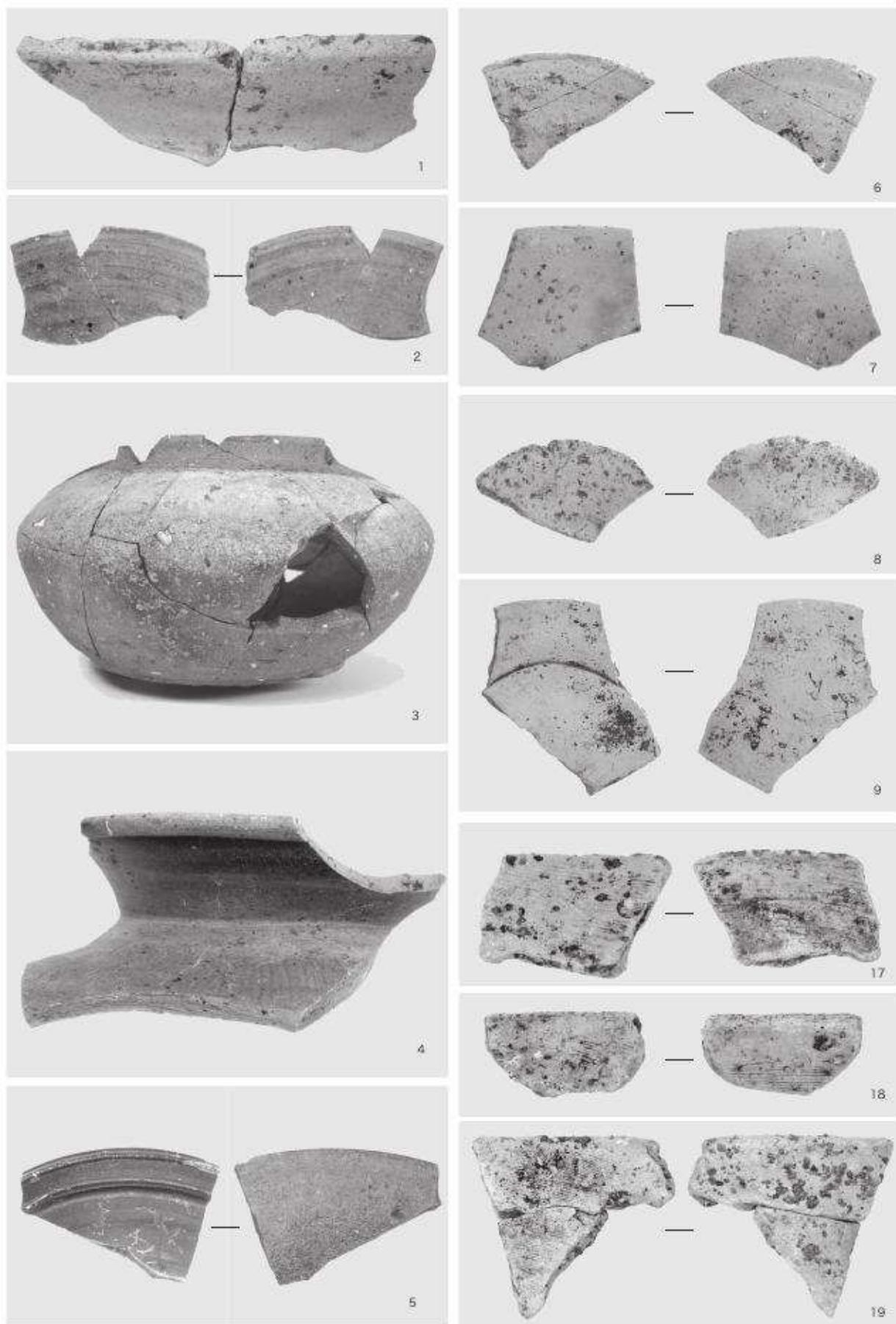
6 柱穴121 (南から)



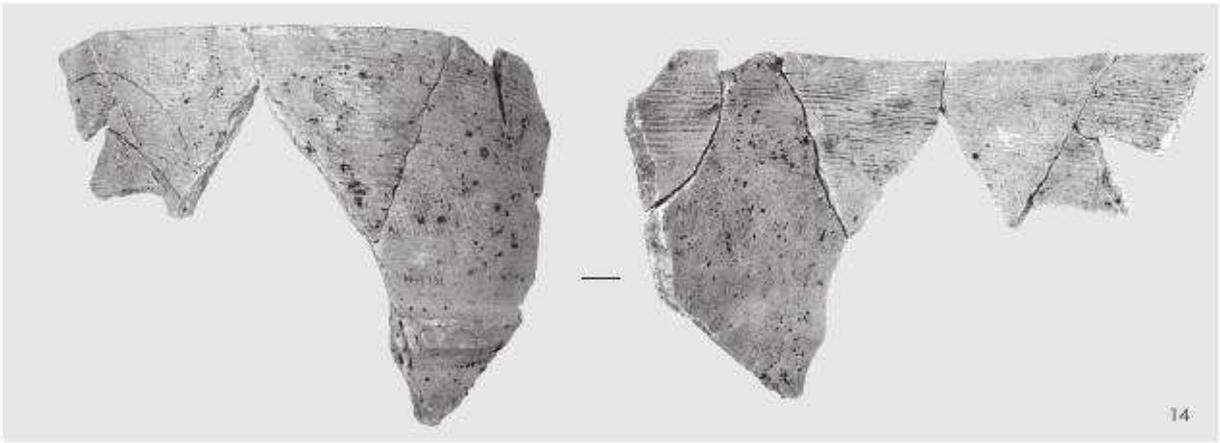
7 Y-24,415.2m セクション (西から)



8 Y-24,423m、同 429m セクション (南東から)



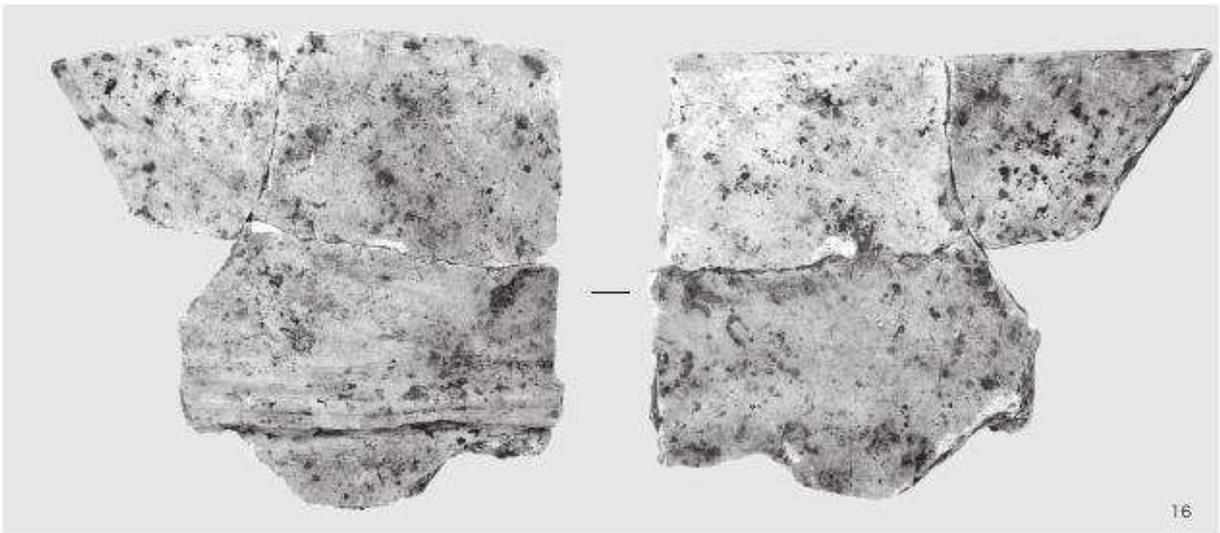
溝 156 (1~5・17~19)・第 2 面上面 (6~7)・整地層 (8~9) 出土遺物



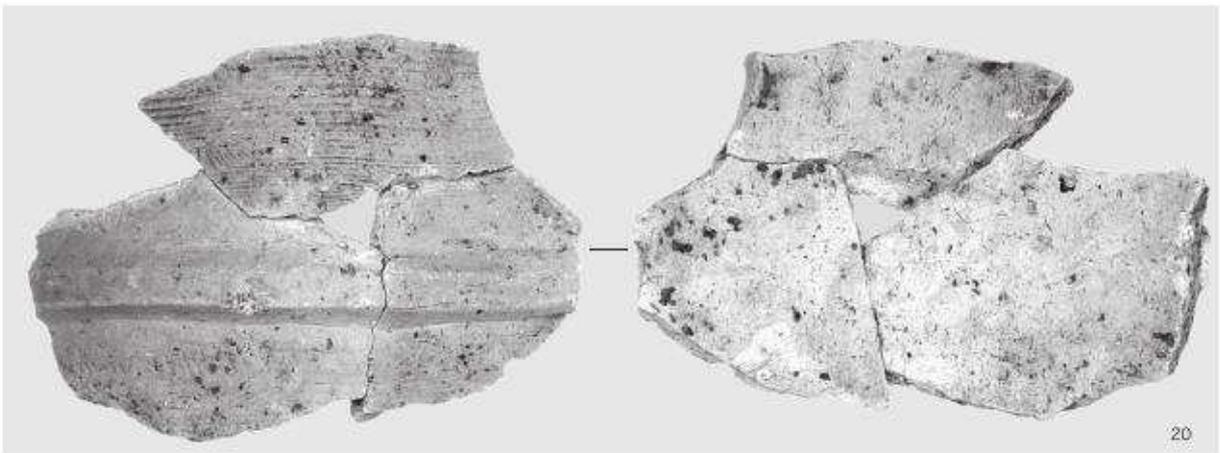
14



15

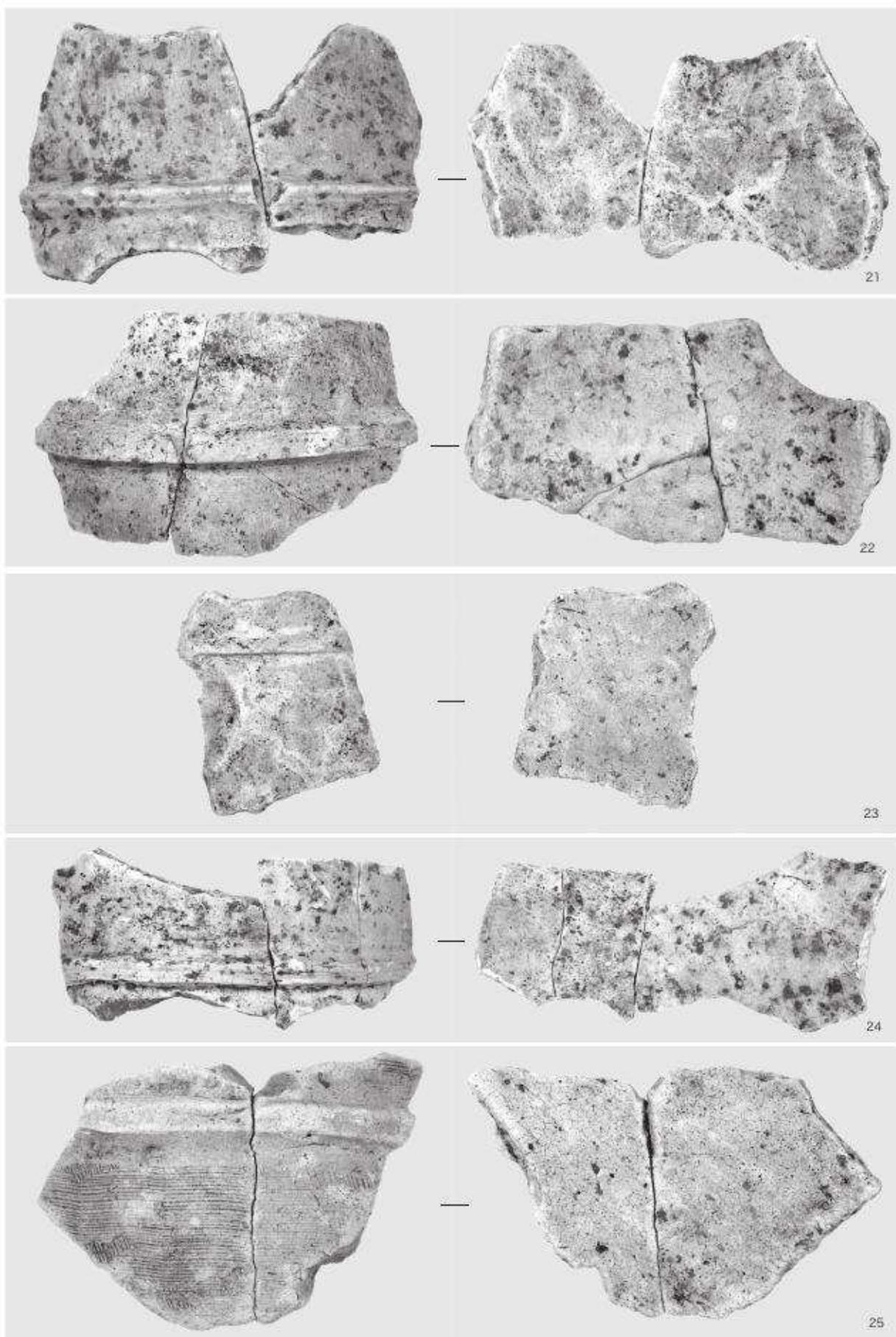


16

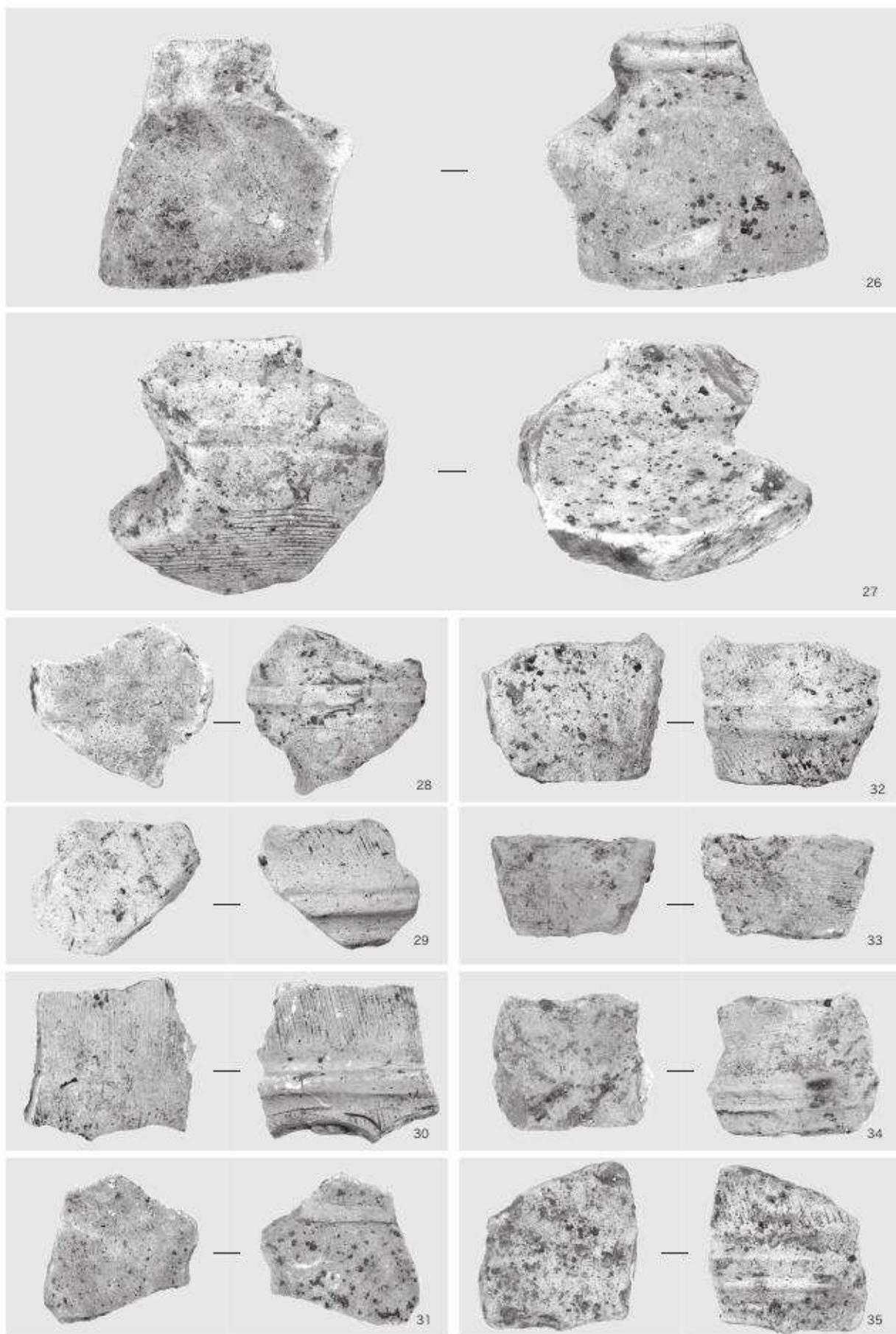


20

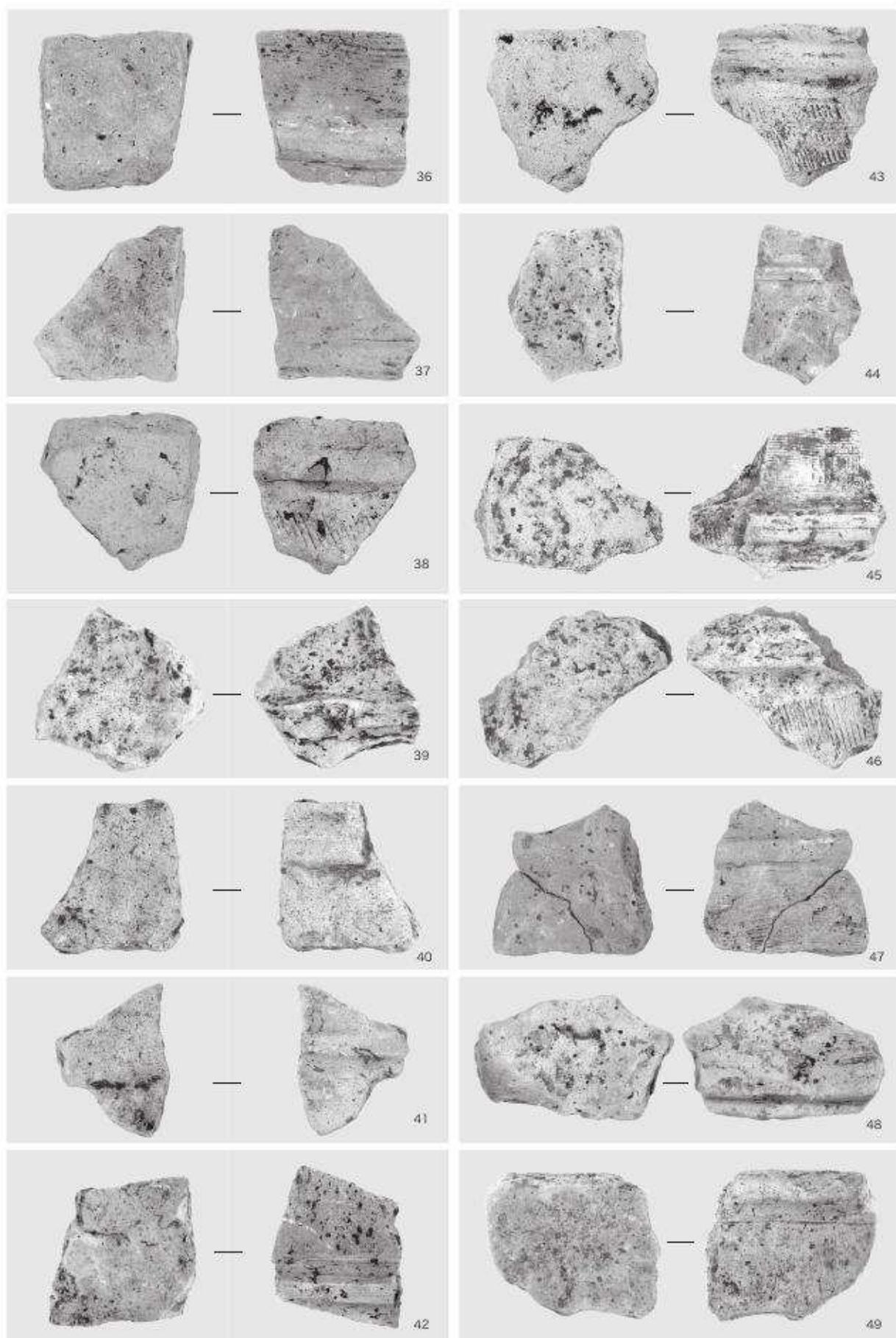
溝 156 (14 ~ 16 · 20) 出土遺物



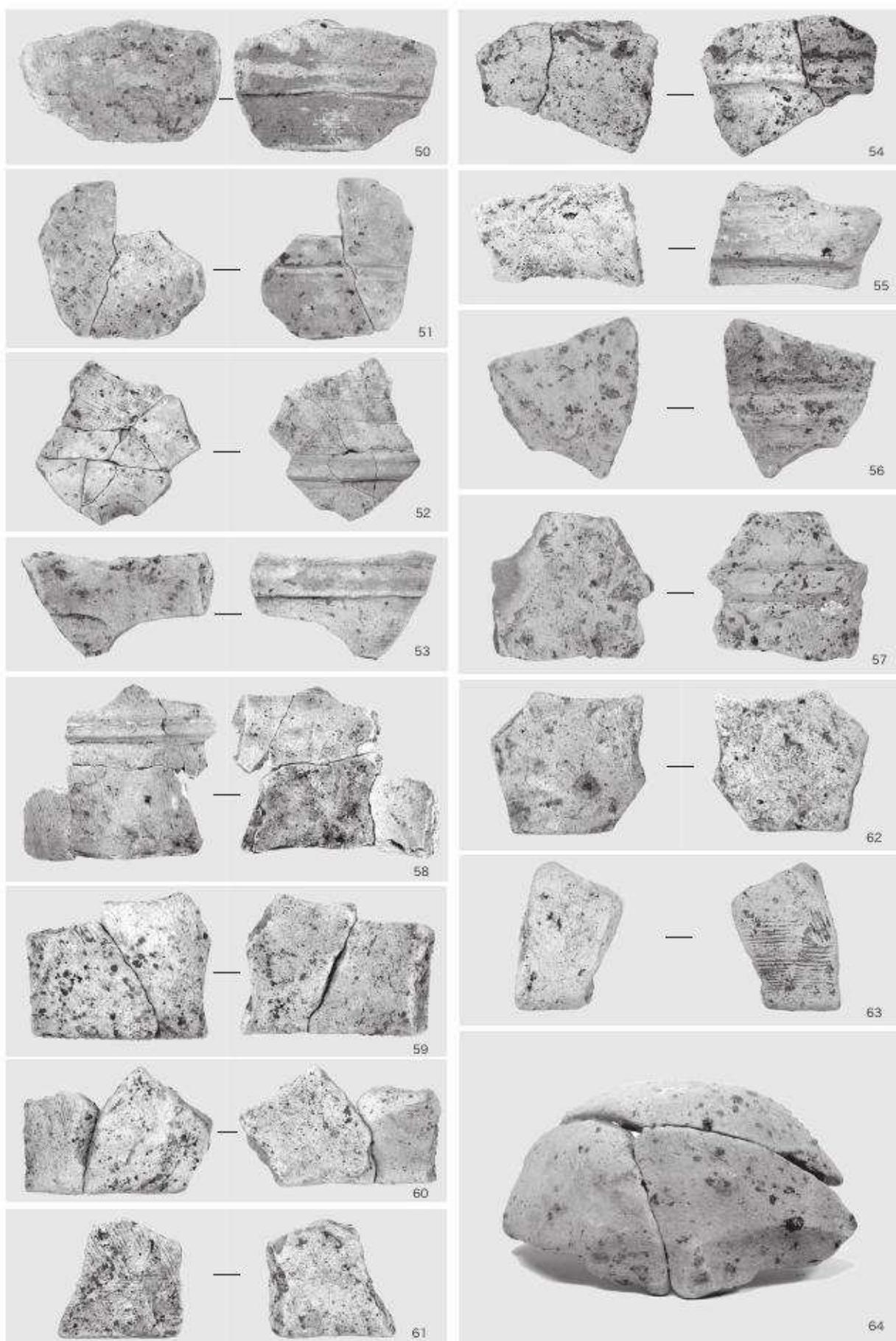
溝 156 (21 ~ 25) 出土遺物



溝 156 (26 ~ 35) 出土遺物



溝 156 (36 ~ 49) 出土遺物



溝 156 (50 ~ 64) 出土遺物

伏見城跡・桃陵遺跡・奉行前町古墳

発行日 2017年1月31日

編集
発行 古代文化調査会

住所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1-4-125-1404
TEL (078) 857-6368

印刷 (有)京都編集工房
〒612-0868 京都市伏見区深草直違橋南1-524-24
TEL (075) 643-6978

